

2023 年度
グローバルスタディーズ専攻
夏期短期語学留学

成果報告集

2023 年 9 月

追手門学院大学国際学部

はじめに

この資料は、追手門学院大学国際学部において2023年9月13日（水）から15日（金）にかけて開講された集中講義「留学特別演習2」から生まれた成果物の一つです。この科目を受講したグローバルスタディーズ専攻の学生27名は、7月23日から8月12日までの期間（移動日を含む）に米国に渡り、カリフォルニア大学バークレー校（University of California, Berkeley; UCB）において短期語学留学プログラムを受講しました。

帰国後の授業である留学特別演習2では、留学を共に振り返り、成果を「見える化」することを目指しました。ここでいう「成果」には、留学を通じて学んだこと、反省点、この経験を今後どう活用したいか、などあらゆることが含まれます。「見える化」とは、主として言語を通じて表現することを意味します。

学生たちは留学特別演習2の授業のなかで、複数の手段によって振り返りと見える化をおこないました。このうち、質と量の両面においてもっとも重厚な形で見える化されたのが「留学報告書」です。共通の項目に関して、合計3,000～5,000字の範囲で一人ひとりが執筆するという課題でした。そして、全員の留学報告書を集めたのが本資料です。

学生たちが、それぞれの体験を自分の言葉で綴り、この貴重な報告集が出来上がりました。大切な思い出の記録になることでしょう。お世話になった人たちへの感謝の手紙のような意味もあります。そして、いずれ読み返してみることで、新たな気づきが生まれることでしょう。見える化しておくことの意義の一つがそこにあります。自分たち自身だけでなく、近い将来に留学を希望している人たちにとっても大いに役立つ知見の数々が、この報告集のなかに散りばめられています。

では、ページを開いて、学生たちが持ち帰った知見を探す旅に出てみましょう。

執筆者一覧 (計 27 名) ※留学成果報告会での発表順

岩瀬 杏夏

胡 萌衣

山田 椋

川口 ミーリン

西村 萌那

田上 隼空

剛 彩音

岩下 陽香

中村 波菜

大塚 優珠

萬木 綱平

中野 幹太

岸崎 光有

谷 聖騎

露口 海吏

京田 莉恋

出水 健嗣

白川 亮太

萱原 悠太

三木 彩菜

広瀬 雅実

中西 麻友

金森 亮希

伊原 大翔

南原 茉維菜

新井 さくら

片木 晴斗

氏名：岩瀬 杏夏

留学報告書

1. 留学先の地域や大学の印象

日本に比べて大変過ごしやすい気候で、夏の室外でも汗ばまず快適でした。ただ夜から朝方にかけては肌寒かったりかなり冷え込む日もあったりするので、上着やなにか羽織るものは必須でした。また日差しがかなり強いので、帽子を被ったり日焼け止めを塗ったりするなどの対策も行った方が良いです。私は面倒くさがって一切そのような対策をしなかったもので、日焼けをして真っ黒になってしまいました。ホームレスの人があちこちにいて、寮から大学に向かうまでの道でさえいました。朝でも夜でも時間や曜日に関係なくいました。貧富の差が大きいのかなと思いました。大学の印象としては、アメリカならではの自由な校風で、親や先生に言われたからなどではなく、みんな自ら進んで学びたいことを学びに来ているという印象でした。日本のように規則や校則が厳しすぎないので、みんなのびのびと生活しているようにも見えました。また、大学内のカフェの店員さんが本当にフレンドリーで、身に着けているものを褒めてくれたり帰り際に一声かけてくれたりしたので、毎日とても気分が良かったです。たいていのことは許されていましたが、教室内で食べ物を食べてはいけないと知った時は驚きました。飲み物は可能でした。敷地内には、木や花などの多くの自然がありました。大学内のボタニカルガーデンに行ったのですが、本当に大学内なのかと疑うくらい敷地が大きかったし美しかったです。サンフランシスコに出ると急な坂がとても多かったです。一度歩いて上ったが本当にしんどくて、車や電車、バスといった交通手段は必須だと感じました。同じカリフォルニアでも少し移動するだけで気候が全く違って驚きました。ですがパークレーは本当に過ごしやすすぎて日本に帰りたくなるほどでした。

2. 授業やその他活動の概要

より専門的な英単語やその用途を学ぶ授業と、実際に学外のカフェや美術館に行ってアメリカのことを詳しく学ぶ授業の二つを受講しました。前者の授業を担当してくれた先生が本当に大好きで、私の誕生日にクラスみんなでバースデーソングを歌おうと提案してくれたり、プレゼントにクッキーをくれたりして、英語以外の、人間として大切なことを彼女から多く学びました。また最終日には大学内のボタニカルガーデンに連れて行ってくれ、みんなで別れを惜しみました。私は自然が本当に大好きなので、あのような機会を設けてくれたことには本当に感謝しています。授業内でつたない英語で質問しても、丁寧に詳しく私

が理解するまで何度も説明してくれました。後者の授業もとても楽しく、実際に自分たちの目で見ると説明を聞いて肌で感じて学ぶので、印象に残りやすかったです。難民の方々が多く働いているという難民カフェが一番印象に残っています。難民の方のお話を実際に聞け、美味しい飲み物も飲めてすごくいい経験でした。博物館に行く時に毎回電車で行っていたのですが、一度私と友達だけ乗り過ごしてしまった時があって、とても焦ったのですがなんとかたどり着きました。

3. 留学により学んだこと的具体例（英語表現や文化など）

たとえ他人同士だったとしても目が合ったらニコッとする、目についた人のいいところは積極的に褒める、思ったことは口に出して言うなどの相手を喜ばせる言動をしたり自分自身をしっかり持っていたりするところがかっこいいです。また、授業内外関わらず誰かから意見を求められたときに、それがどのような質問であってもすぐに自分の意見が出てくるところにも感心しました。日ごろから自身の意見や考えを持って生活しているのだろうと思います。私を含め日本人は、つい曖昧なことを言ってしまうがちなので見習いたいです。また、パンが主食なので白米が全く売られていないです。食堂で白米が定期的に出て嬉しかったのですが、そのお米も日本のものではなくタイ米のようなものだったので、日本のお米が恋しかったです。日差しが強い日は、ほとんど全員がサングラスをかけていました。授業で学んだ英単語は初めて聞くものが多かったのですが、意外と身近で使えるものがたくさんあったので、友達同士で何度も言い合って覚えました。単語帳に載っているような簡単なものではなく、より専門的で日常生活において大切な単語を学びました。いつもだったらこんな単語いつ使うのだと反抗的な考えになってしまうのですが、今回は頑張っって習得しようと試みました。

4. 自分が考える留学の成果と反省点

元々リスニングには自信があったのですが、毎日英語を耳にすることでさらに自信ができました。さらに、お店で聞かれることの定型文や友達と会話するときの話しかけられ方も何度も聞くことで覚えることができました。やはり生の英語を継続的に聞くことが一番大切だと身に染みて感じました。また日本に帰ってきてからも、相手が日本人であれ外国人であれ、目が合ったら微笑みかけることができるようになりました。ですが放課後や週末の多くを日本人と過ごしてしまったので、スピーキング力はそれほど伸びてないと感じます。単語を多く知っているだけでもだいたい違ったと思うので、留学に行く前にもっと単語の復習をしていけばよかったと後悔しています。もしまた留学に行く機会があったら、現地の友達と遊びに行ったりご飯を食べたりして実際に英語を話す時間を増やしたいです。

5. 留学経験を今後どう活用したいか

もし次またいつか留学に行くときに、ゼロからのスタートにならないようにしたいです。そして、英語がスラスラ出てこなかった悔しさをバネに単語や資格の勉強をします。水道水と硬水で長い間下痢で苦しんだので、水や食事には細心の注意をはらいます。現地で格差社会を目の当たりにして、貧困問題により興味を持ったので、それにかかわる情報を集めたり積極的に学んだりもしたいです。また、既成概念にとらわれないアメリカの考え方を自分にも取り入れ、広い視野で物事を見て人間性を深めたいです。

6. 謝辞

一年生という早い段階で留学ができたことは本当に良い機会だったし、日本にいたら得ることができなかったものをたくさん得ることができた。感謝しています。UCB という素晴らしい大学で三週間みっちり学べ、他の大学では到底できないような経験をたくさんさせていただきました。これから待っている留学ができる多くのチャンスを無駄にしないように授業や TOIEC などの資格勉強にも精いっぱい取り組みますのでよろしくお願ひします。渡米前から留学中、帰国まで、長い間手厚いサポートをありがとうございました。

氏名：胡 萌衣

留学報告書

1. 留学先の地域や大学の印象

今回の summer session で、Berkeley に行つて印象に残つたことは、現地のホームレスと道端や電車の上で大声を出して叫ぶちょっと避けたほうがいい人の多さです。アメリカは日本や中国に比べて治安が遥かに悪く、私にとって衝撃でした。ホームレスは至るところにいて、ほぼワンブロックに一人の頻度でいました。Academic Vocabulary の授業で、Ellen 先生がカリフォルニアは気候が良く、この季節はほとんど雨が降らないので、アメリカの中でも特別にホームレスが多いと言っていました。その次の街中で見る精神的に狂っている人について、私も何が原因でこのようになったかはわかりませんが、病気であったり、ドラッグであったり。別の人には“絶対薬やってるやん！こわ！”と言っていました。私はこういう言い方は嫌いです。確かに、ドラッグを吸うことは悪く、してはいけないことだと思います。ですが、私はこの人たちも多分本心ではこのような様態になりたくないと思っています。この人たちはもしかして辛い過去があったかもしれない、先が見えなくなって、このような岐路を歩んだのかもしれない。信頼でき、頼れる人がいなく孤独で、社会から見捨てられた気持ちになり、希望を失って、ただ心の支えになるものを探していたのかもしれない。見ていて気の毒で、哀れな気持ちになります。当然、理解できるというのはやっていいとはイコールしません。ですが、私はこのように軽々した責めには同感を得ることはできません、私たちは他人の人生を歩んでいないから、私たちには人を評価し、ジャッジする資格などありません。皆に明るい未来があることを心から祈っています。

私たちが帰る前日の夜、寮に怪しい男性が忍び込みました。私が住んでいる3階の洗面所でシャワーを浴びた後、裸で壁に向かって体の上の水を振っていたそうです。私のこの目で見るとはなかつたのですが、確実に恐怖の心情を引き起こしました。後ほど、警察の方が来て、男性を連行し、私たちも結果として無事に日本に戻ってくることができました。3週間の間無事に過ごせたことをありがたく思っています。

アメリカに行つて次に嬉しく思い、意外だったことは授業中に先生が言っていることをほぼ聞き取れ理解できたことです。追手門でも、Advanced English ではネイティブの Jacob Reed 先生がいます。Jake 先生が言っていることはほぼ理解できていたのですが、それは私たちに合わせてゆっくりでわかりやすい英語を使用しているからで、実際にUCBの授業はハードルが高くついていけないのを心配しました。自分の今までの努力がしっかり身について、私の力となっていたことを実感できてよかったです。ですので、授業は苦痛ではなかつたです。その代わりに、私は多分 Academic Vocabulary と Berkeley Experience 両方の授業

において課題が一番多いクラスに入っていたので、課題は少し多く、毎日自分で決めた課題もあったので、ずっと先の見えない感じで、色々なことに追われていた気持ちでした。

同じ授業を受けていた追手門以外の生徒の 9 割がアジアから来た人で、その中の 9 割がまた中国人で、中国人の割合に驚きました。アメリカの大学で留学している従姉妹と「本当に外に出ても中国人だらけだね」と共感しました。

2. 授業やその他活動の概要

Academic Vocabulary は、私のクラスでは Ellen の教えの習慣で、決まった進行とがなく、先生が思いついたことや、これは私たちに覚えて欲しい知識を次々教えてくれました。授業でとったノートのカイズとかもあったりしました。ノートを使い切ることにはなかったので、今でもたまには前の内容を見返したり、他の勉強に使ったり活用しています。Berkeley Experience の授業では美術館 Berkeley Art Museum と Oakland Museum に行き、Berkeley での初めての電車やフェリーを体験することができました。両方の授業においてプレゼンがかなりありました。Berkeley Experience では前回の授業で課題が出されて準備期間が設けられたのに対し、Academic Vocabulary ではその場で言われ、30 分の準備期間を与えられ、少しハードルが高かったです。

そのほか、授業以外の時間ではアメリカの病院に行く特別な経験だったり、ショッピングに行ったり、観光地に行ったりしました。

3. 留学により学んだことの詳細例（英語表現や文化など）

私は記憶力が良くありません、それに日々悩んでいるのですが、最近私はこのような考えもあります。その出来事、学んだこと、経験したことが実際に私の身につき、私の成長を率いる栄養分になっていけば、忘れても構わない。無理に覚えようとして、自分を苦しめることはない。心と体の声を聞いてあげようと思っています。

自分の記憶の悪さを認識しているので、普段から自分の気持ちや思ったことをすぐに書き出す習慣があります。その日々の行いのおかげで、今回のレポートもその上で成り立つことができました。本当に日頃の積み重ねは大事だと思っています、やっけてとてもよかったですと思っています。これがまさに私が前日本の中で読んだ複利効果ではないか、学んだことを実世界で検証できることより嬉しいことはないです。

4. 自分が考える留学の成果と反省点

一つの単語で表すならば、私は今回の留学を混沌と表します、いつもの生活と変わりのない。私は混沌の塊です、常に自分のことを説明したいと思いますが、難しいです。ですが、これは人生を貫く課題なので、焦ることないと自分に言いかけています。そのため、想いの

ままこの振り返りを書きたいと思います。まず、自分褒めたいと思います。自分で自分に決めたルーチンを怠ることなく、現地での授業の課題も自分なりに努力を重ねました。学習面でも、生活面でも自己のベストを尽くしたと思います。自分が想定していたより遥かに頑張れたと思っています、自分でもとても驚きました。最初はもう空港に着いた時点で諦めるかもしれないと思っていたくらい、自分に対して自信がありませんでした。ただただこの全く新しい別世界みたいな Berkeley で先生もついていってない状況で私が精神面の苦痛とうまく付き合い、何事もなく3週間を乗り越えるだけでもう何よりです、授業で何を学べたかも具体的には言えません。私にとって一番大きかったのは精神面での自己の成長です。ですので、辛い面もありましたが、ほぼ強制的に新しい環境に乗り込み、自己を磨いたことは感謝しています。

アメリカに行く際には、本を3冊持っていきました。行く前に時間割を見て、授業外でかなりの空き時間があったので、無駄にしないため3冊にしました。結果として、1冊も完読はできませんでしたし、中の1冊は開くこともなかったです。ですが実際の状況に合わせての調整で、私としてはこれでよかったですと思います。日本語の本を一冊、中国語が二冊。特に私に影響を与えたのが Tara Westover の Educated です。行きの飛行機の上で読み始め、大阪に帰ってきた次の日に読み終わりました。Tara が身にした非人道的な経験に心をひりひりしました。本の上に私はこう書き残しました、“今回の summer session のような、私にとって大きい成長を迎える時期に、この本に出会い、Tara の成長に伴い私も成長でき、私はどんなにラッキーなのでしょう。”私の今まで経験したことは作者と似たようなことがあります、もちろん Tara が経験したほど辛くはく、彼女とは比べ物にはなりません。その点でも私は非常に恵まれています。そのため、私は Tara と共感できることがあります。“もうすべてのことを乗り越えてきたから、すべてのことは良い方向に向っている。”“自分を信じること、Anything is possible. どのように成長するか、どのように変わるか、すべて自分にある。私たちは他人を変えることはなかなか難しいが、自分を変えることはできる、ですが、他人のために自分を変え、従順する必要もない。自分のやるべきことをして、自分のなりたい自分になる。私たちは私たちが唯一コントロールできる人です。”自分が書いたことをうまく日本語で説明するのもなかなか難しいです、うまく伝え切れたのでしょうか？この本を読めたことと、勉強面で自分が自分に決めたことを全部やり遂げたことは私の中で一番大きく、よかったこととなりました。

5. 留学経験を今後どう活用したいか

今回この3週間の間は本当に疲れ、楽しかったとは言えませんが、頑張ったぶんは絶対全てが私の成長に必要な栄養分になってくれると信じているので、気づかないうちに私の力になっていると思います。

少しは斬新で慣れていない環境や予測不可の未来に対してはポジティブな気持ちで向き合えることができるようになったかもしれない。

私の身近で仲良い友達や従姉妹、従兄弟のほとんどがアメリカ、イギリス、ドイツに留学しているので、皆のことをすごく感心しています。家族から離れて、1人で全く知らない土地に行って大学4年間院2年間皆が皆できることではありません。私もこうやって友達や身近な優秀な人の努力している姿を見て、自分の頑張るモチベーションになってきました。

6. 謝辞

1回目のzoomのミーティングで北村先生の英単語一つでBerkeleyでの生活を表す質問に対して、私はexhaustedと答えました。その後に私は北村先生から温かいメールをもらいました。その励ましの言葉を私は自分のノートに書き写しました、一生忘れません、感謝しています。

Ellen先生とBeth先生には心から感謝しています。二人ともとてもいい授業を受けさせてくれました、かわいくて陽気なEllen先生に、授業中のチームワークの時に私に話し相手がいなくて優しく声をかけてくれて一緒に話し相手を探してくれようとしたBeth先生。私が初回の授業で自分は英語を話すことに対して自信がないと言った後に、Beth先生は私に話す機会を作ろうとしてくれました。私が課題の中で出した疑問に対しても熱心に先生の考えを教えてくれて、最後には私の考えや成長を認めてくれました。2人の指導を忘れたくないです。

氏名：山田 権

留学報告書

1. 留学先の地域や大学の印象

空港を出て初めに感じたことは日本と比べて涼しいということです。留学前から涼しいと聞いていましたが予想していた以上に涼しかったです。日中、日が出てきたとしても湿度が低く、とても過ごしやすい気候でした。中国から来た留学生も、中国は日本と同じように湿度が高いのでパークレーはとても過ごしやすいと言っていました。

大学に対しての第一印象は“広い“ということです。大学内にいろいろな建物があります。その建物一つ一つも大きく、特に図書館は映画に出てきそうな内装と天井の高さに驚きました。大学内で印象深いことはたくさんありましたがその中でも気に入ったのは芝生です。図書館の前に広い芝生が広がっています。そこでは本を読んでいる人やご飯を食べている人、犬と遊んでいる人がいました。私も晴れている日に芝生に寝ころびました。とても自由を感じた瞬間でした。大学にはリスがたくさんいます。自然豊かで過ごしやすい地域だと思います。

2. 授業やその他活動の概要

授業はアカデミックボキャブラリーとパークレーエクスペリエンスの二つを受けました。まずアカデミックボキャブラリーでは私が今まで学んできた単語よりも学術的な単語の意味を学びました。他にもアメリカの文化についてグループで話し合ったり、先生が話してくださったりしました。

パークレーエクスペリエンスでは学校の外に出て様々な経験をしました。美術館や博物館に行ったことが印象に残っています。初めの週は大学の近くにあるパークレー美術館に行きました。そこには自然の叫びを木の枝で表現した作品や、ロープとスチールを組み合わせた大きな作品などがありました。二週目の授業では校内にある障がい者のための設備を実際に探しに行ったのが印象に残っています。日本では見たことのない設備や、気にして探さないと気づけないようなものを見ることができたので良かったです。最後の週は、難民の方が働いているカフェに行ってお話を聞きました。その授業の事後課題で、難民の方にインタビューをしました。自分で難民の方を探してインタビューをするという課題で、私は授業で行ったカフェに行ってお話を聞きました。学校外で英語を使う場面に緊張しましたが、とても良い経験になりました。

パークレーエクスペリエンスは座学ではなく自分たちが実際に足を運んで経験する授業でした。そのため、移動時間や授業内の活動の中でクラスメイトと英語を使う機会が多かつ

たです。日本人以外の学生とは主にパークレーエクスペリエンスを通して仲良くなりました。

3. 留学により学んだこと的具体例（英語表現や文化など）

まず一つ目は子どもの育て方についてです。私のアカデミックポキャブラリーの先生は、幼いころから自分の身の周りのことは自分でやるよう親に言われていたそうです。これは親によるかもしれませんが、クラスメイトも自分のことを完全に自分でするようになったのは中学生のころだと言っていました。実際アメリカでは赤ちゃんの頃から一人部屋があるという話も聞いたことがあります。たかが寝室だったとしてもそれは個人が独立することに繋がりますと思えました。

二つ目は個人主義についてです。アメリカではファーストネームを先に言ってファミリーネームはそのあとに言います。これは自分が属しているグループ（ファミリーネーム）より個人（ファーストネーム）を強調しているからなのではないかと先生が言っていたのを聞いて納得しました。アメリカはグループよりも先に個人が注目されます。個人がどう思っているかが需要で、それを授業でも感じました。授業内で先生が言っていることが理解できているのか意思表示をしてほしいと言われてたり、自由に意見言う場面があったりしました。日本よりも個人が重要視されているように感じました。パークレーエクスペリエンスの授業では美術館に行ったりウォールアートを見に行ったりしました。そのたび作品に対してクラスメイトがそれぞれ感じたことを自由に話していました。毎週書いていたリフレクションでも私が感じたことに関して先生が毎回返答してくださったのが嬉しかったです。自分の意見を持つことの大切さを知りました。

三つめは、様々な国から来た人が生活しているということです。授業の課題で見たパークレーの大学内にいる学生にインタビューしている動画内で、母国語に加えて英語やその他の言語を習得している人がたくさんいました。寮や大学の周りには難民の方が働いているカフェがあったり、タイ料理やギリシャ料理、中華料理など様々なジャンルの料理店があったりしました。そのことからパークレーには様々な国にルーツを持った人がいるということがわかります。

四つ目は障がい者のための設備についてです。パークレーエクスペリエンスの授業で障がい者のための設備をグループになって学校内に探しに行きました。何気なく行っていた学校のウィーラー・ホールに、たくさんの設備があることに驚きました。スロープや手すりはもちろんですが、障がい者用の避難椅子を初めて見ました。これは気をつけないと通り過ぎてしまいそうなものです。Evacuation Chairs と書かれた大きめの箱がありました。これは緊急時に障がい者が避難するためのものです。これがあることを知らなければ、いざというときに使えないので、この機会に知ることができて良かったです。また、車椅子の人が入れるように広めに設計されたトイレもありました。日本には誰でも使える多目的トイレがありますが、この学校のトイレは日本の多目的トイレよりもはるかに広がりました。広々と使えるの

は良いことだと思います。私が滞在していた寮にもバリアフリー設備がありました。それは、車椅子の人のためのカードスキャナーです。寮では学生証を読み取ると入り口のドアが開きます。一つは目の高さ、もう一つは腰くらいの高さに設置してあります。車椅子に座ったままでも使える配慮だと思いました。また、部屋番号が書かれた看板には点字も一緒に書いてありました。授業をきっかけに、各所に障がい者用の設備があることに気づきました。

4. 自分が考える留学の成果と反省点

自分の言いたいことを伝えることの難しさを痛感しました。授業で中国人の学生とグループになったとき、自分以外の 2 人が会話を続けているのに、自分だけ会話に加われないことがありました。そのような場面では、間違ってもいいからとにかく話すことを重視してコミュニケーションをとりました。言語はコミュニケーションのための道具に過ぎないということを肌で感じることができました。追手門学院大学で英語を習っていますが、私は将来の夢がまだないので、なぜ英語を勉強するのか目的がわからなくなる時がありました。しかし、留学に来て、他の国の学生とコミュニケーションをとる中で、自分の言いたいことを伝えるためには英語が必要だと気づきました。英語を学ぶことが目的ではなく、英語を使って会話することが目的なのです。英語を使うためというより、誰かと話したいから英語を使うという機会が多かったのは日本ではできない経験だと思いました。それによって、英語を話すことに対する抵抗が以前より減ったことが留学の成果だと考えます。

反省点はリスニング能力が乏しいだけに相手が言っていることを聞き取れなかったことです。授業では先生がわかりやすくゆっくり話してくださるので聞き取れましたが、授業外で突然話しかけられたときは何度か聞き返しました。ランドリースペースで「Did you guys just move in?」と聞かれました。冷静に聞いたら意味を理解できるのに突然話しかけられると混乱して何度か言ってもらいました。文法や単語を知っていればそれらを組み合わせて何とか会話はできますが、まず相手の言っていることを聞き取れないと会話にならないと気づきました。

5. 留学経験を今後どう活用したいか

今回の留学で出会った留学生は全員向上心がありました。自分の国の大学での専攻が英語ではない人も多くいました。英語を学ぶことで自分が学んでいる分野に関してより広い視点で物事を考えられるのではないかと考えました。私も英語以外に興味のあることを見つきたいです。

また、英語力を伸ばすために特にリスニングに力を入れて勉強します。TOEIC の得点を伸ばして、次の留学に行くためのきっかけを得たいです。

6. 謝辞

今回の留学にあたり、手続きから留学中のトラブルまで適切な対応をしていただき、丁寧にサポートして下さった国際連携企画課の方々、並びに国際学部の職員の方々に感謝します。また、留学の費用を出して下さった家族に心から感謝します。ありがとうございました。

氏名：川口 ミーリン

留学報告書

1. 留学先の地域や大学の印象

まず初めに、治安は思っていたよりも悪くはなかったのですが、路上に座りこむホームレスの人を毎日見かけたと思います。話かけてくる人もいれば、黙り込んでいる人がほとんどでした。ホームレスが多いゆえにホームレスの人同士で話している人も見ました。大学は広く、ゲートが有名だと知りました。初日は、全部は見に回らずに授業を受ける教室がある建物を見て回りました。別の日に大学内を歩いていると、キャンパス内にもホームレスの人を見かけました。おそらくホームレスの人だと思いましたが確かではないです。校内だけがUC Brekeley なのではなく、山の方面にもガーデンがあったり、少し離れているところにはプールがありました。何より私が気に入ったのは、学校の服です。大学の名前が書かれているので記念に買っておくのもいいです。デザインもかわいく、パーカーだけではなく、スカートもありました。普段使いもできます。

2. 授業やその他活動の概要

クラスの外に行くことがありました。道行く人にインタビューをするという授業の中の活動がありました。丁寧に長く答えてくれました。時には、近くの難民を受け入れているカフェがあり、お話を聞く機会を設けてくれました。話を聞くとき、字幕とかはなく聞くだけなのに理解できることが多くて、英語を聞くことができるようになったということを実感しました。だけど聞くことに精いっぱい内容を覚えることができませんでした。質問の時も聞こうとしていたことがありましたが、もしかしたら言っていたのに聞き逃していると思って聞くことができませんでした。他にも、サンフランシスコに行きました。景色が日本とは違うこともあり少し似ていると感じることもありました。フェリーの建物に行きました。アートもたくさん見ました。それぞれの作品を見てみんなの思うことが違うのもまた面白いものでした。意見交換の場もありたくさんみんなが思うことを聞くことができてよかったです。

3. 留学により学んだこと的具体例（英語表現や文化など）

文化として、やはりグループワークも多い中、クラス全員の顔が見られるような席に配置されたことです。学生に積極的に発言をさせる場も多く、中国人の生徒はすごく積極的に手

を挙げます。質問をされた時も答えるのに恥ずかしがらず手をあげて自信満々に答えていました。この時に私が思ったのは、普段から自分の意見を言う学習の場にいたのだと思います。何事も聞くだけでなく、聞くと同時に自分の考えも同時に出てきた、いろいろ感じていることがあるんだと思いました。私も考えましたが、英語にどう表現することができるのかわからなかったです。手をあげるのにも勇気がいりました。文化も国籍も違う人がクラスにたくさんいて、考え方もそれぞれ違うため、それぞれの意見に発見もありました。グループワークの時は困りました。質問をされたときに言葉が出なかったです。質問自体が本当に難しいこともありました。Mix language について話しましたが、私にとって Mix language とは本当に言語と言語が混ざって使われるのかということ、そんなこともなくて、話によると Chenglish のような Chinese と English が混ざったようなことを言っていました。想像とは違い話についていけないです。意見を聞かれた時も、日本では意見と感想で明確に分かれているけど、海外は Opinion と聞かれ感想を言えばいいのか意見を言うのかも分からないです。文化もそうですが、言語の壁というのはその国に行かないと感じれない、気づけないことがあるのだと思います。反応の違いもあったりして話を聞いているのか自分が相手の質問に対して正しい答え方をしているのかわかりませんでした。私自身も「あー」や「おー」としか返せないです。そのことで気まづくなり、私も話をまじめに聞いて理解していますが反応のせいで相手に悪い思いをさせていないか心配でした。それでも明るい人達だったので問題はなかったです。

4. 自分が考える留学の成果と反省点

成果は積極的に手を挙げて何かに取り組んだりすることが少なく、それをできたのでよかったです。1回意見を言うって下さいというところで、考えだけはできたのですが自分が質問されている内容が本当にあっているか、理解できているか心配で発表できなかつたです。間違えるのが怖いということは、周りに自分よりも英語ができている人が大勢いるからだだと思います。悔しいよりも、もっと上達させていけないと思いました。英語でのコミュニケーションをとるのは積極的に出来ました。もう一つあります。留学の準備段階で後でもできるだろうと電話の SIM の取り換えを後にしていましたが、うまくいかず、やり方もわからないので電話は3週間 WIFI をうけて使っていました。準備は早めからしておくことが大事だと思いました。

5. 留学経験を今後どう活用したいか

この経験を活かしてたくさんの英語学習に取り組みたいと思いました。留学に行くまで、英語を使うということに興味は薄れて行っていました。アメリカで英語を話しているうちに意味が通じると楽しく感じ、自分に自信を持ちました。将来、英語を使う仕事にあこがれていて、そのために勉強もしていましたが、今は日常で英語を使ってコミュニケーションを

とる楽しさ、外国人の人との交流の場が広がっていくうれしさがあります。言語を習得するたびに人との関わるができる範囲が広がると思いました。そのため、外国人が困っていたりすると助けたいという気持ちも現れました。

もう一つあります。留学というと心配するばかりの日々だとよく言われました。ネットでもよく見かけます。心配は多少しますが、楽しむことで毎日時間が過ぎるのが早く感じました。授業も早く感じ、活動内でできる限りのことは使用と一生懸命取り組むことができました。もったいなく感じるのもあり、せっかく留学に行かせてもらえ阿野なら心配ばかりせず勉強も遊びも充実したいと思っていました。その分なぜか一生懸命授業に取り組むと勉強が一層好きになれた気がしました。勉強に少し興味はありましたがいつも中途半端なところで止めてしまうのは私の悪いところでした。それがなぜか留学しているときはそんなことなかったと思います。途中で止めても最後は全部するということができました。いい成績を取りたいという意識が現れたのも留学先で見た留学生たちのすごさが影響していると思います。帰ってくると成績発表もあり、いい成績ではなかったので少し落ち込みました。もう少し頑張っていたらなと思いました。留学経験を活かして、私は授業をまじめに受講していい成績をとれるように頑張りながら勉強を楽しむことにつなげたいです。

6. 謝辞

この度は、短期語学留学の体験の場を設けていただき感謝をしています。費用や手続き、そして授業内での先輩方や先生方の体験を聞くことにたくさん助けられました。正直自分が初めて行く留学先の国がアメリカだとは思いませんでした。安全面でも心配があり、留学日が高いことも承知していました。けど行って見て、すごく貴重な時間だと思えました。私は一度怖いと思うと挑戦ができないタイプの人間でした。なのでこのプログラムがないときっとアメリカに行くという経験はなかったと思います。実際に行ってみて、思っていたよりも安全ではあったけど気を抜いてはダメだと思えました。日本の国外に出るということがいつもより安全ではないということを改めて思いました。これも経験だといえます。このような経験があるからこそ世界を知るきっかけになりました。

氏名：西村 萌那

留学報告書

1. 留学先の地域や大学の印象

今夏、私はカルフォルニア大学バークレー校に三週間の短期留学に行きました。7月後半だったのに気温は20度前半で日本の夏と違いとても過ごしやすく快適でした。私は、はじめて大学に訪れた時にスケールの違いに本当に驚きました。大学内に博物館や様々な国の新聞があり学生が幅広い分野について興味を持ち、学ぶことの出来る環境が整っているなど感じました。また小川や草木などの自然にも溢れていて、敷地もすごく広いので大学を回るだけでも大変でした。大学の周辺の地域は海外らしいかわいらしい建物が多く街を歩くだけでも楽しかったです。ですが街中にドラッグフリーゾーンがあったりと日本ではあり得ないものが日常に溢れておりとても驚きました。

2. 授業やその他活動の概要

私はこの留学で Academic Vocabulary と Berkeley Experiences という2つの授業を履修していました。クラスによって授業の進め方に違いはあったようですが、私のクラスはどちらもみんなでディスカッション、プレゼンテーションや外にインタビューをしに行くなどの会話が主になっている授業でした。Academic Vocabulary の授業は名前の通り、自国で専攻している学部の話などのアカデミックな話を英語でされるので聞いているだけで大変でした。また、私のクラスの先生は発音や会話に重きを置いていたので、話すのが苦手な私は着いていくのがやっとで、何度も授業に行きたくないなと思いました。しかし、同じクラスの追大の人や他の国からの留学生がわからないところがあっても優しく教えてくれたので、最終日にはこのクラスで良かったなと思うことが出来ました。Berkeley Experiences はそこまで授業という感じではなく、博物館に行ったり船に乗ったりと学びながら色々な経験ができてすごく楽しかったです。博物館では第二次世界大戦時の在米日本人の展示があり、日本では習ったことがない当時の在米日本人の様子が知れてとても印象的でした。授業は月～木までしかなく週末にはサンフランシスコなど友達と行きたいところに行き思いっきりアメリカを楽しみました。今思えば、話せなくて暗い気持ちになっていたけど、Berkeley Experiences や週末でのアクティビティが良いリフレッシュになっていたのかなと思います。

3. 留学により学んだこと的具体例（英語表現や文化など）

私はこの留学を通して、“会話”について一番学んだと思います。行く前からわからないならわからないと言う、意思表示することが大事だと聞いていましたが本当にその通りだと実感させられました。しんどかった授業でもわからないと伝えることで周りの人が協力してくれたり、先生が別の方法を提案してくれたりと物事が良い方向に進むのを肌で感じました。またアメリカでは本当にみんなが話しかけてくれます。お店の人にどこから来たの？何か探しているの？と聞かれたり通りすがりの人に急に話しかけられたりと日本ではなかなかないようなことが日常茶飯事です。知らない人に急に話しかけられるのではじめは戸惑いましたが、少しずつ慣れていき、なにより自分の英語が通じたのがとてもうれしくてお店の人たちと会話するのが買い物の楽しみの1つになりました。こういうのは実際に行かないとわからない事だったと思いますし、色々な人と会話するということが自らが彼らの文化の1つとして根付いているのかなと感じました。

4. 自分が考える留学の成果と反省点

私は英語を話すことへの羞恥心や海外に行くことへの不安といったネガティブな気持ちを消せた事がこの留学での一番の成果だと思います。日本にいて急に英語を話さないといけないような場面なんてないので、初日は本当にずっと緊張していて注文も友達にしてもらい、とにかくうまく話せませんでした。しかし、当たり前ですが授業も、買い物も、交通機関も英語という英語に囲まれた生活を送ると一々恥ずかしいとか感じなくなりましたし、もし間違えてもわかってもらえるまで話せばいいやと少し楽観的に考えられるようになりました。反省点は、もっと勉強していくべきだったなと何度も思いました。正直あまり英語が出来なくても行ってみればなんとかなります。ですがやはり豊富な語彙力や英語表現を知っているに越したことはないと思います。私はクラスメートと話していて、浅い知識では、短く浅い会話しか出来ないなと感じさせられました。せっかくの機会だったからもっとたくさん話せたらきっと楽しかっただろうなと少し後悔しています。さらに私は勉強面だけでなく、留学先の大学のことや Berkeley がどんなところなのか近くになにがあるのかなども全く知らずに行きました。知っていれば時間を無駄にせずに色々なところに行けたらろうし、何よりドラッグについてのカルチャーショックも軽減されたと思うので事前にも現地についての学びも深めるべきだったなと反省しました。

5. 留学経験を今後どう活用したいか

この留学での経験を次の留学に活かしたいと思います。この報告書を書くにあたって改めてこの留学で何を心得、それを何に活かせるか考えてみました。私はこの3週間すべてが新しい経験でたくさんのことを学んできました。しかし、この短い期間で学べることに

限界があり、私は正直何にこの経験を活かすことができるのか中々浮かびませんでした。ただこの留学で確実に私の中で留学へのハードルが下がりました。留学に行く前は、英語話せないし、海外治安悪そうで怖いしと思っていましたが、この留学を通してそれらの留学に対するネガティブな気持ちが消えました。この経験のおかげで次の留学に挑戦しやすくなったと思います。もし今回の留学のような必須の留学なければ私は大学 4 年間留学しないまま終えていたと思います。ずっと 3 週間の経験が何に活かせるのかと考えていましたが、次の留学へのきっかけとして、今回の反省を次に活かせるように活用していこうと思います。

6. 謝辞

今回の留学はたくさんの方々のおかげです。金銭面で支えてくれた父と母には感謝してもしきれません。そして、留学特別演習でお世話になった北村健二先生。留学に関するすべての手続きで助けてくださった国際連携企画課・JTB の皆さん。さらに、UC Berkeley での授業を担当して下さりいつも理解出来ているか気にかけてくださった先生方。出国から帰国まで留学中行動を共にし、支えてくれたグローバルスタディーズのみんな。関わってくださった全ての方々のおかげでこの留学を有意義なものにすることが出来ました。本当にありがとうございました。

氏名：田上 隼空

留学報告書

1. 留学先の地域や大学の印象

アメリカに行く前の印象としては、アメリカは日本とは違い銃社会で治安も悪く、薬物が合法の町と聞いていたので、危険な印象ばかり持っていました。しかし、実際はたまに銃声は聞こえたり、ホームレスが道に沢山いたりしましたが、それほど治安は悪く感じませんでした。現地の人も優しく自分の拙い英語でも聞き取ろうとしてくれたり、日本人という事で興味をもって話しかけてくれることも多かったです。思ったよりも治安は悪くなく、現地の人もフレンドリーな印象でした。

大学は、思った以上に大きく、自然豊かでビックリしました。授業ごとにキャンパスを移動するだけでもかなり時間がかかります。多くの現地の学生は電動キックボードを使っていました。大学内にはキャンパスだけではなく、博物館のような展示物がある建物がありました。図書館もかなり大きかったです。どのキャンパスも障害者のために配慮されていてバリアフリーが配慮されているなど感じました。学生だけではなく、一般の人の憩いの場になっていたり、幅広い年齢の人が利用していました。とにかく自然豊かで、大きな公園かと思うくらい広かったです。

2. 授業やその他活動の概要

アカデミックボキャブラリーの方の授業は、追手門の授業の体制と似ていてペアワークが多く、話し合いの時間が何回か設けられていて、発表する機会も多かったです。この授業では、英語の正しい発音だったり、単語の語源や文法的なことを学びました。

バークレーエクスペリエンスの授業では先生が主体となって動くのではなく、生徒が主体となり授業が行われていました。この授業は午後からで、フィールドワークを取り入れながらの授業でした。座学による授業はほとんどなく現地の学生に声をかけてインタビューをすることもありました。他にも移民の人が雇われているコーヒーショップに訪れたりし、移民の人の話を聞いたりもしました。その他にも美術館や博物館、アメリカのストリートアートなどを見に行きました。美術館や博物館ではただ見て回るだけでなく、その絵を見て感じたことや思ったことを他の生徒に伝える発表がありました。突然のプレゼンに用意も何もしていませんでしたが、即興でなんとかこなしました。他の生徒の意見を聞く中でも勉強になることがありました。最後の授業では、フェリーに乗ってサンフランシスコに向かいました。フェリーから見るサンフランシスコの街並みは、日本では見れない光景が沢山でした。

サンフランシスコでは町を探索し写真を撮りました

この授業では地下鉄を使って移動することが多かったので道中に他の留学生と仲良くなれる機会があったので友達を作るチャンスです。

3. 留学により学んだこと具体例（英語表現や文化など）

留学で学んだことは大きく二つあります。

まず、一つ目は文化の違いです。日本とアメリカでは文化は全然変わってきます。例えば、日本ではチップ制度というのはあまり浸透していなく、日常の中でチップを払うことは滅多にありません。しかし、アメリカではレストランなどの飲食店に行ったら、お会計の際にどれだけチップを払うかを提示されるくらいチップが日常では当たり前物となっています。他にはホームレスの人が街中にたくさんいたり、日本では違法な薬物がアメリカでは合法だったりと驚くこともたくさんありました。日本では正しいことでも、他国の留学生の人にとっては良くないことだったりすることもあったので、それも学びました。これらの文化の違いは日本にいては、経験できなく、これからのグローバル社会に向けても文化の違いを学べたのは良いことだと思いました。

2つ目は、積極性です。留学を通して一番感じたことはこれでした。私は誰にも人見知りすることなく、話しかけたりするのは得意な方でしたが、英語でとなると苦手意識が生まれ話しかけることが出来なくなる部分がありました。しかし、なんでも行動を起こさないと周りには誰もいないままだし、まず話しかけることが大事だと思いました。今思えば、定型文とかを使って話しかければよかったと思いました。多少発音や文法は間違っても、相手は理解してくれるし、恥ずかしさを捨ててでも話しかけに行くことは大事だと学びました。

4. 自分が考える留学の成果と反省点

自分で考える留学での成果は、間違いを恐れなくなったことです。留学に行く前の自分は、英語を喋ることにに対して抵抗がありました。それは間違った文法で英語を話すことは恥ずかしいと思っていたからです。しかし、授業でのグループワークやペアワークなどをこなしていく中で、とにかく文法は間違っても相手に伝えることが大事だというのに気づきました。それからは、積極的に間違いを恐れることなく話しかけに行った結果、何人か友人も出来て一緒にご飯を食べに行ったりもしました。自分が気にしていた文法の間違いとかは、現地の人には思ってるよりも気にしていなく、留学前は英語を話すことに自信がなかった自分も留学を経て、克服できたと感じました。

今回の留学での反省点は、留学生の人や現地の学生の人との関わりをもっともつべきでした。授業を通して仲良くなった人は沢山いましたが、休日に遊んだりすることが出来なかったのもっと自分から積極的に誘ったりすればよかったと思いました。勇気を出して積極的に現地の人と話していたつもりでしたが、もっと人付き合いを大切にすればよかった

と思いました。留学に行く前に、会話のテンプレートや語彙表現などをもっと知っておくべきだと思った。会話をするうえで焦って何を話せばいいか分からなくなることが多々ありました。それ以外にも日本の食品や物をたくさん持っていくべきでした。事前準備を怠ってしまったのが反省点です。

5. 留学経験を今後どう活用したいか

今回の留学経験を経て、今後は英語の勉強をより一層頑張ろうと思えました。留学中に現地の学生と話したり、意見を共有する場面がたくさん多かった中で自分の知っている語彙が少ないせいで意見を上手く共有できなかつたり、日本がどんな街かを伝えられないことも何度かあったので、今回の留学での経験の悔しさを糧に、次の機会の留学では今回のようなことがないように英語学習に取り組もうと思えました。そのためにも今回の留学で得た成果をもとに TOEIC のスコアなどにも頑張って取り組んでいきたいです。そして留学を経て、学んだことや反省点を今後の学生生活にも生かしていきたいです。

6. 謝辞

今回の留学に携わってくれた両親、JTB の方々、国際連携企画課の方々にはたくさんお世話になりました。自分にとっては初となる海外留学の際の手続きなど何一つ分かりませんでした。手厚くサポートしていただいた郷田さんには感謝しています。3週間の短期留学を楽しく過ごせたのは、親のサポートや留学関係者の方々のおかげで充実したものとなりました。留学での経験を今後も生かしていきたいです。

氏名：剛 彩音

留学報告書

1. 留学先の地域や大学の印象

バークレー校は、まるで異世界のように映画の中に入り込んだような印象です。キャンパスは数えきれないほどの数があり、ひとつひとつがお城の様でした。なかでも私が一番印象強かったのは先生の生徒と向き合う気持ちの強さです。これだけ大きな大学で人も追手門大学とは比べ物にならないくらいいるので、先生が生徒と一人一人向き合えるはずがない、ただ教えるだけの存在なのだろうと勝手ながら思っていました。しかし、それは全然違いました。先生たちは、一人一人の生徒としっかり向き合い、私たちが思っているより私たち一人一人をよく見ていてくれました。なので、カリフォルニア大学バークレー校は先生が生徒のことをしっかり考え向き合っている、という印象でした。また、私たちが過ごしたバークレーは治安こそいいとは言えませんが、とてもたくさんのお店があり賑やかな印象でした。誰もが使える美味しい食堂がいくつもあったり、セカンドストリートや丸亀製麺などの日本食屋さんがいくつもありました。本屋さん、体育館などもあったので、学校帰りのちょっとした時間を近辺で過ごそうとするのにあまり苦勞はしませんでした。ただ、ホームレスが多すぎて毎日苦しい気持ちにはなりました。

2. 授業やその他活動の概要

私たちは2つの授業を受けていましたがどちらも違う良さがありました。1つの授業は楽しく英語が学べるというようなものです。私は最初授業についていけず自分のレベルにあっておらずとてもつらかったです。しかしその様子を見てくれていた担任のレイチェルが私たちに声を掛けてくれました。そして「わたしはあなたたちに楽しく授業を受けてほしい」と仰ってくれました。そして私たちにあったクラスに移動させてくれました。そこからは授業が楽しくて苦痛じゃなくなりました。レベルが少し下がったからと言って何も学べないとかではなく英語で話すように言ってくれたりしっかり勉強になりました。またもう一つの授業は担当のマイケルがいろんなところに連れて行ってくれました。たくさん美術館に連れて行ってもらって、とても貴重な体験が出来たと思います。また最後の授業で移民の方がやっているカフェに行ったのがとても印象的でした。英語はうまく聞き取れませんが、店員さんの言いたいことが何となく伝わりました。

休日は近辺ではなく遠出をよくしました。グレートモールやフィッシャーマンズワープに行ってお店の人とコミュニケーションをとったり、お土産をたくさん買いました。日本語

が話せる人に会ったときはとても驚きました。またただ歩いているだけで微笑みかけてくれたり挨拶してくれたりしてくれてとても心温まりました。とても記憶に残っているのは、サンフランシスコに行った時のことです。街中で歌っている人をずっと眺めていて、そこを去ろうとしたときにその人が微笑みかけてくれて、小さく手を振ってくれました。その時本当に映画の世界に入った気分になってとても嬉しかったです。電車に乗っているときに一駅分だけダンスのパフォーマンスをしてくれたことも本当にいい思い出です。非日常的な毎日がとても楽しかったです。

3. 留学により学んだこと的具体例（英語表現や文化など）

留学により学んだことは日本とアメリカじゃ全く考え方や文化が違うという事です。まず初めにびっくりしたのはアメリカで信号無視や電車やバスの無賃乗車が普通ということです。なんなら路面電車の運転手の方はとても陽気で払わなくても自ら乗せてくれました。またアメリカでは歩いているだけで「日本人？」や「調子どう？」など声を掛けてくれたり、目が合っただけで微笑んでくれたりしました。私が思う日本にはないアメリカのよさはこれだと思いました。

アメリカに行って映画だけじゃなくて本当に「Have a nice day」という表現を日常で使うことを知りました。また、「Have a nice day」の夜バージョンで「Have a good night」という表現があることも知りました。

日本の英語能力はほかの国に比べて格段に劣っていることを思い知りました。留学生の多い授業では特にそれを感じ、日本人だけついていけておらず、ものすごく疎外感を感じて悲しかったし恥ずかしかったです。しかし反対に、外国の人からしたら日本はとてもいい場所だと思ってもらえていることも知りました。ただ歩いているだけで「日本人？」と声を掛けられて、日本の好きどころ、日本語を勉強していることなどを熱弁してくれる人と数人出会いました。そんな時、自分が日本人であることがとても誇らしく感じました。

4. 自分が考える留学の成果と反省点

私が考える留学の成果は、最初はスーパーで物を買うのにも緊張してなかなかできなかったのですが、最後のほうには、難なく物を買うことが出来ていたことです。また、なんか恥ずかしくて言えなかった、「I'm good」や「Have a nice day」が言えるようになったことです。

私が考える反省点は、店員さんや同じ寮に住んでいる子などに、積極的に話に行けなかったことです。いつも自分よりできる友達に頼ってしまっていました。最初の留学生が多いクラスで最後まで頑張れなかったこともとても後悔しています。そして出された課題を翻訳機を使ってギリギリにこなしていたことも反省点の一つだと思います。また、授業中に先生に英語だけで話すように言われても、日本人の友達と話しているとやっぱり気づいたら日

本語で話していて、あまり英語で話す意識が出来ていなかったです。一番後悔していることは、日本人以外の友達を作ることが出来なかったことです。言語の壁は相当高いことを実感しました。

5. 留学経験を今後どう活用したいか

私はこの留学は私の人生においてとても貴重で大切な経験になったと考えています。わたしにとってこの留学はとても刺激的で感じたことのない感覚感情がたくさん生まれました。私はこの留学で学んだこと、感じたことを思い出して今後の勉強のモチベーションにして頑張りたいと思いました。留学中に最もよく感じたことは、英語が話せない聞き取れないことの恥ずかしさと、これが出来ればもっと楽しくていろんな人と出会えるという期待の気持ちでした。なのでこの気持ちを糧に英語の勉強に取り組みます。

アメリカの人から学んだ、人とかかわり方や、考え方、心の余裕の持ち方などを日本に帰ってきてからも忘れずに実践していき、アメリカの人のような余裕のある人になりたいです。

6. 謝辞

わたしはこの留学をするにあたって、たくさんの人の助けをもらいました。親にはたくさんのお金を使ってもらい、色んな事をしてもらいました。先生方には私の要領が悪いゆえにたくさんの迷惑をかけ、全力でサポートしていただきました。私は先生方や親がいなかったら今頃留学には行けていません。感謝してもしきれません。本当にありがとうございました。

氏名：岩下 陽香

留学報告書

1. 留学先の地域や大学の印象

私にとって、この留学は、初めての海外だったので、見るものすべてが興味を引くものばかりでした。日本と違い、街並みそのものが自由で、人々のファッションも個性があり、とても面白い街でした。しかし、ホームレスも多く、夜は銃声が聞こえたり、ガラス割れる音がしたりと、治安はとても悪かったです。

日本と違った所は、ゴミ箱の量が多いことと、自動販売機がないことに気づきました。

カリフォルニア大学の印象は、キャンパスの広さと自然の豊かさです。どこまでがキャンパスなのか把握できないほどの広さでした。しかし、その広さと自然は、カリフォルニア大学の学生がのびのびと勉強できる、環境づくりにつながっているのだと思いました。

2. 授業やその他活動の概要

私のはじめの1限目のクラスは、ほとんどの学生が他国の学生でした。その授業で初めて、他国の留学生との英語力の差を強く感じました。他国の留学生が、先生とコミュニケーションを難なくこなしている中、私は置いてけぼりでした。他国の留学生同士が仲を深める中、日本人学生は孤立していました。しかし、それに先生が気づいて下さり、クラスのレベルを下げ、自分にあったレベルのクラスに行くことを決めました。

どの先生も、生徒とのコミュニケーションを大切にしており、日々、私たちが楽しんで学べる環境作りを心がけていることが伝わってきました。そんな先生の授業に参加できて良かったです。

3. 留学により学んだことの詳細例（英語表現や文化など）

私が今回の留学を通して学んだことは、たくさんありますが、大きく分けて4つあります。

1つ目は、アメリカの多様性の実現です。留学前から、授業の中でSDGsについて学ぶことがあり、LGBTQや人種などの多様性問題を扱うと、必ずと言っていいほど、「どう受け入れるのか」など、理解しようとしがちな答えが多いです。日本では、こんなにも多様性の受け入れを学んでいるのにもかかわらず、なぜ実現がみられないのか、なぜアメリカでは多様性が実現されているのかと考えました。その結果、私は、「人に干渉しすぎないこと」がアメリカで多様性が実現されている理由なのだと感じました。

2つ目は、日本の安全性を再確認することができました。日本以外の国の環境を、自分自身で感じたことがなかったのですが、実際に住んでみて、日本がどれほど安全で、平和な国なのかを身をもって知ったからです。銃声も大麻の匂いも、無賃乗車も当たり前のアメリカは、衝撃的だった。

3つ目は、日常会話の習得です。はじめの頃は、一人で注文することも怖く、留学経験のある友達に、助けてもらっていたのですが、自分ひとりで、注文できるようにもなり、「トマト抜き」をお願いしたりすることもできるようになりました。他にも、目がひいた人には、「あなたの写真を撮らせてほしいです」と自ら声をかけられるようになりました。

4つ目は、日本ではない幸福感が味わえることです。私が驚いたのは、横断歩道をわたった時に、すれ違った女の人が、「あなたのジーンズすごく素敵ね」と褒めてくれたときです。他にも、お店はもちろん、散歩中の人でさえも、「良い一日にしてね」と言ってくれたときに、とても幸せを感じました。日本では、感じられない幸福感に、私はとても満足していました。

4. 自分が考える留学の成果と反省点

私が考える留学の成果は、大きく分けて3つあります。

1つ目は、異文化を体感できたことです。文化の違いに、最初は戸惑いがありましたが、同時に面白さを感じました。他にも、日本とは違った考え方や価値観に対して寛大な気持ちをもてるようになりました。異文化を知り、互いの違いを理解できる感性をもつことの重要性を感じました。

2つ目は、挑戦することへの抵抗がなくなったことです。すべてにおいて、初めてで、知らないことが当たり前の毎日だったので、人から教えてもらうことが多く、「困っていても、助けを求める勇気があればなんとかなる」と、楽観的に物事を捉えられるようになったからです。

3つ目は、他国の留学生の英語力の高さを痛感できたことです。授業を通して、英語を使った、コミュニケーション能力の差に驚きと戸惑いがありました。他国の留学生の、課題に取り組む姿勢に衝撃を受けました。与えられた時間の中で、課題の意図、チームのゴールを明確にして作業を進め、最短のルートで高い評価を得るチームメイトの姿勢を身近で感じられたことは、貴重な経験になりました。

次に、私が考える留学の反省点は、英語力の低さです。この留学の条件に、語学は不要でしたが、少しでも身につけて参加すべきだったと思います。

なぜなら、他国の留学生や先生と深く関わることができなかつたからです。それは、とてももったいない事をしたなと感じます。次回、他国を訪れた時には、自ら進んでコミュニケーションができるようにしたいです。

なので、この反省を生かして、今後の大学生活では、英語の習得を目指して頑張ろうと思います。

5. 留学経験を今後どう活用したいか

私は、今回の留学経験をどのように生かしていけるのか、具体的なことはわかりませんが、大まかな目標としては、他国にも足を運び、ボランティアなどの活動に参加してみたいです。

それは、今回のアメリカ留学を通して、新しい事を知る喜び、自分自身の好奇心に気づかされたからです。日本と違った、文化やコミュニケーション、環境を、身をもって知ることへの興味が留学前に比べて、さらに強くなりました。

なので、ほかの国の様子を自分の目や体で感じながら、現地の人に関わり、かつ、人の役に立つ活動がしたいです。

だからこそ、現地の人とコミュニケーションができる程の英語力をつけていくことが私の現段階での目標だと考えています。

6. 謝辞

3週間という短い時間でしたが、それ以上に、今回の留学プログラムは、現在の自分にとっても、これからの自分自身にとっても、大きな影響を与える良い機会になったと思います。

経済的にも、大きい負担があるにも関わらず、私が安心していけるように、できる限りのサポートをしてくれた両親には感謝してもしきれないです。他にも、国際連携企画課の郷田さん、JTBの方や、先生方のサポートのもと、無事にこの留学を終えることができました。

忘れてはいけないのは、一緒にこの留学に挑んだみんなへの感謝です。みんなが居てくれたから、助けられたことも多く、拙い英語でも、進んで現地の人に話しかけている姿をみて、私自身頑張ろうと刺激を受けました。

今回の留学を通して、私を支えてくれた皆様本当にありがとうございました。

氏名：中村 波菜

留学報告書

1. 留学先の地域や大学の印象

私は今回短期留学でアメリカ合衆国にあるカリフォルニア大学バークレー校の3週間のサマーセッションに参加しました。大学はアメリカ合衆国カリフォルニア州バークレーという場所にあります。サンフランシスコに電車1本で行くことができる便利な場所です。ビルがたくさん立ち並ぶような都会でも、自然が沢山ある田舎というわけでもない丁度いい過ごしやすい地域だと感じました。ただ、寮の近くにドラッグフリーの道があったり、ドラッグを使用しているのではないかと思われる方やホームレスの方がいることも多々あったため、そこは気を付けて行動するべき地域だとも感じました。大学は私が思っていた以上に広くて驚きました。自然が多く、リラックスできる環境だと思いました。私は英語をすべて聞き取ることも、話すこともできませんでしたが、先生方は私が伝えようとしていることを受け止めてくれて、急かすこともなく待ってくれたことがとてもありがたいと思いました。出会った方々はとてもやさしい人が多かったです。店員さんは一見不愛想な人も多かったですが、私に対応に困っていても優しく対応してくれた方が多く、助かりました。

2. 授業やその他活動の概要

今回のサマーセッションでは2つの授業を履修しました。1つ目の授業は Academic Vocabulary です。この授業では単語や文法を学びました。難しい単語もでてくることもありましたが、私が参加していたクラスは日本人が多かったため、私たちが分からない単語の意味を先生が簡単な英語で説明してくださりました。私のクラスには台湾人が1人いたため、単語の発音や意味を台湾の言葉や日本の言葉と比較するということも多々ありました。課題では Exell の表に自分にあてられた単語の品詞や類義語などを書くという方式でよく出されました。先生が話しやすい、優しい先生だったので、質問などもしやすくてとてもよかったです。

2つ目の授業は Berkeley experience です。この授業では大きく言うとアメリカ合衆国の歴史について学びました。黒人差別（人種差別）の歴史やアメリカの文化がどのようにして進んでいったかを美術館や博物館などに行き行って学びました。大学の周辺の街中にあるストリートアートや歴史のあるコーヒーストックにも行きました。実際に自分で歩いて自分の目で見て、話を聞いて学ぶことができました。インタビューも行いました。クラスの中でチ

ームを組み、出された質問をカリフォルニア大学に通っている学生にインタビューします。それをチームごとに発表し、全チームの発表を聞いて、思ったことをそれぞれ言っていくというものです。そしてこの授業で1番私の印象に残っているのは、フェリーに乗ってサンフランシスコに行ったことです。最後の授業でフェリーに乗ってサンフランシスコの港町に行き、グループを組んでプリントに書いてあるお題の答えの写真を撮るといった授業を行いました。最後のこの授業で初めて話す人とグループを組んだこともあり、とても緊張したことも含め、1番の思い出になりました。この授業で出された課題はどれも難しかったです。アメリカの進歩が描かれた絵を見て、何を感じるか、自分の国との違いは何かなど、日本語で聞かれても難しいと感じるものが多かったと思います。ですが、この課題から、それぞれ国によって考え方の違いを感じたり、学ぶことが多かったです。

3. 留学により学んだこと的具体例（英語表現や文化など）

この留学で学んだことは主に3つあります。

1つ目は単語や文法です。Academic Vocabulary では毎回自分の知らなかった単語を学ぶことができました。今まで英語のそれぞれの意味の簡単な単語しか知らなかったのだなと思いました。これからはアメリカで学んだように同じ意味の違う単語も頭に入れていきたいなと思います。授業で学んだことは繰り返し復習して忘れることの無いようにしたいなと思います。

2つ目はアメリカの文化や進化です。Berkeley Experience では文化や考え方などとても多くのことを学びました。そして授業以外の生活していく中でも学ぶことがありました。例えばチップです。なぜチップを払わなければならないのか、理解したいと思い調べました。アメリカは収入が少ないため、チップをもらわないと収入が足りないそうです。実際に自分が払う立場になったことで、新しく知ることができました。そして人種差別についても学びました。美術館などで人種差別を題材にした作品を見てほかの国の留学生の意見を聞くことで自分の意識の低さを実感し、考え方が少しではありますが、変化しました。

3つ目はコミュニケーション力です。コミュニケーションに関しては、1番変化が少ないことかもしれません。ですが、今回出会った方々はフレンドリーな方が多かったし、今では話しかけて本当に良かったと思っているので、1歩を踏み出す力がついたのではないかと思います。

4. 自分が考える留学の成果と反省点

私が考える今回の留学の成果は英語に対しての意識が以前よりも向上したことです。留学に行って、授業を受けるたびに自分の英語力の未熟さを思い知りました。日本に帰ってきて以前よりも英語の勉強に対する意欲が上がったので、今よりもっと英語能力を伸ばすことができるように頑張ります。そして自分の世界を広げることができたこともとても大き

な成果だと思っています。

反省点としては、積極性が足りなかったと思うことです。授業でグループインタビューをしたときに、インタビューをほかの人に全部任せてしまってそばで聞いているだけになったり、自分は英語が話せないからと恥ずかしい、怖いという気持ちからグループの人に話しかける勇気もなく話しかけてくださった質問に返事をするしかできなかったことが今でももったいなかったなと思います。また、やはり日本人の友達といる時間がとても多かったので英語を話す時間が短かったことです。留学に行く前は英語で話そうねと言っていたのも実際はそんなことができずに日本語で話していたので、そこも反省点の1つです。

5. 留学経験を今後どう活用したいか

私が今回の留学を通して自分の内向的な部分がほんの少しかもしれませんが、外交的に変化したのかなと思います。自分から声をかけるということがなかなかできずにいましたが、今しかチャンスがない、せっかくアメリカに来たのだからと勇気を出していくことができました。そして考え方や価値観の変化もありました。日本にいるときには気づかない国籍や価値観、宗教への考え方などの違いを感じました。これから将来のことを考えるときに日本人ならではの考え方だけでなく、今回の留学で学んだことを活かしていきたいと思います。また、今回の留学を通して自分の英語力がまだまだ足りないことを痛感したので、これから英語学習を今まで以上に真摯にしていこうと思います。そしてこの3週間につながることでできた縁を大事にしていきたいと思います。

6. 謝辞

今回の留学は沢山の方のお力添えがあったからこそ実現したのだと感じています。留学には多大な費用がかかることを知ったうえでチャンスを与え、応援してくれた両親に感謝しています。学費だけでなく、私が出かけるときの費用も出してくれたおかげで沢山のことを経験できました。そして留学の準備をしてくださった国際連携企画課の方々、JTBの方々、先生方、ありがとうございました。つたない英語を聞き取り、優しく寄り添っていただいたアメリカ現地の先生方、とても感謝しています。これから、留学して学んだことを活かして日々精進します。最後に、皆さま本当にありがとうございました。

氏名：大塚 優珠

留学報告書

1. 留学先の地域や大学の印象

留学先の地域や大学の印象は多国籍だと思います。大学を歩いているとたくさんの人種の人を見ました。日本では日本人以外がいることがまだ珍しいと思うので、アメリカではアメリカ人以外の方がたくさんいること、それが当たり前だということに驚きました。食堂でのご飯が宗教や国のことも考えられていてアメリカはたくさんの方がいると改めて実感することができました。

そして自由な印象も受けました。大学が広いからというのものもあるけれど大学内で自転車に乗っていたり教室の前に自転車を止めたり、大学の芝生でご飯を食べたりスケボーに乗っていたり、一人一人が自由に過ごしている印象がありました。日本ではこのようなことをあまり見かけないので珍しく感じましたが、アメリカでは誰が何をしていたほうが気にしていないような感じが自由だなと思いました。

バスは19歳以下が無料で乗ることができたり、電車もたくさんあったりしたからいろいろな場所に行くことができました。

ゴミ箱がたくさんあって食べ歩きした時などもすぐに捨てることができるととても便利でした。

2. 授業やその他活動の概要

English Vocabulary という授業では主に英単語を学びました。英語で英単語の意味を知ること初めてしました。授業で取り扱う英単語について日本語で理解していても、先生にこの単語と似ている意味を持つ英単語は何ですかと聞かれたときに答えるのが難しかったです。英単語のテストが何回かあって、英単語の勉強を英語で勉強するという経験を初めて経験しました。授業では他にもペアワークで会話を作るといったような課題をしたり話し合ったりすることが多く、クラスメイトとの仲も深まったと思います。

Berkeley Experience という授業の初回の授業ではランダムに三人で班を組み、学校にいる三人以上の人に学校のどこが好きか、学校の好きな場所などの質問をしました。それらのインタビューの回答をまとめたものをグループでプレゼンテーションをするという授業をしました。班の中に日本人じゃない人もいたのでコミュニケーションをとることが難しかったです。

Berkeley Experience では主に外に出て学ぶということをしました。

博物館に行ってアメリカだけではなくアジアの歴史を学んだり、アメリカの音楽やコーヒの歴史などを学んだりしました。日本の物などが展示されている場所には主に世界第二次大戦のことについて書かれていました。日本で知る世界第二次大戦の情報とアメリカで書かれている世界第二次大戦の情報は少し視点が違っていたと思いました。だから、今まで知らなかったことを知ることができ、世界第二次大戦について前より知識を深められたと思います。博物館に行ったとき、展示品の感想を書くという課題が出ました。展示品が何を表しているのかを理解するところから難しく課題に苦労しました。

3. 留学により学んだこと具体例（英語表現や文化など）

レジで商品を渡したときや、お店に入ったときに店員さんが How's it going? と聞いてくれる。

他にも文化の違いを学びました。アメリカでは当たり前なことが日本では当たり前ではないことが結構ありました。チップ制度の存在は知っていたけれど、日本にはチップの文化がないから慣れるまで戸惑っていました。地下鉄に乗るときにお金を払わずに改札を通り抜けている人が結構いたことに驚きました。国が違うだけで考え方や常識などが全然違うということが留学を通して学ぶことができ、考え方などを客観的に見ることが前よりもできるようになったかもしれないと思いました。

4. 自分が考える留学の成果と反省点

成果は積極性が留学前よりも身についたことだと思います。最初の週の授業では問いかけられても、発言することができませんでした。しかし、先生は間違ってもいいから発言してほしいと言っていました。それを聞いてから自分の回答が間違えていたらどうしようというような不安はなくなっていき、授業で発言する回数が増えたと思います。発言した時、間違っていたとしても先生は褒めてくれたから発言することに抵抗がなくなっていき、積極性が身につきました。

1つの授業はたくさんの留学生と一緒に勉強していたので指名された時にみんなに伝わらなかつたらどうしようなどの不安がありましたが、周りの人たちは伝わらなくても理解しようとしてくれ、発言しやすい雰囲気です不安などは少しずつ解消されていきました。授業の前には自分から先生に話しかけて会話をしたり、買い物に行って聞きたいことがあったときも自分から店員さんに話しかけたりすることが前よりも増えました。この留学で身についた積極性は日本で何かに挑戦したいと思った時などに活かすことができたらいいなと思いました。

反省点は話しかけるときに翻訳機を使ってしまったことです。自分が伝えたい文章をどういったらいいのかわからないとき、すぐに翻訳機を使ってしま

いました。授業でほかの留学生や先生の話の聞いているとき全く理解することができなかつたこともあり、とても悔しかったです。翻訳機を使わずに会話した時は、返答ぐらいしかできなくて自分の勉強不足を痛感しました。私は今回の留学を通してもっと勉強しなければならぬと実感しました。もっとたくさんの人と会話したかったと思ったので、会話するためにはその人が話している英語の内容を理解する力や、その会話に返答する力を身につけなければならぬと思いました。留学だけで勉強を終わらせるのではなく、日本でも勉強を続けていきたいです。

5. 留学経験を今後どう活用したいか

私は留学先がアメリカだと知ったとき、アメリカは銃を持つことができたり、物を盗まれたりするのではないかと、などに対する不安がありました。しかしアメリカに着いて生活していると、事件は全然起こらないしむしろ平和だと感じました。店に行ったら店員さんが笑顔で話しかけてくれたり対応したりしてくれ、歩いていたら挨拶をしてくれる人もいました。道が分からなくて困っているときには聞くと優しく教えてくれる人もいました。このようなことは自分がアメリカに来て体験しないとわからなかったことだと思います。アメリカでの過ごした時間が長くなれば長くなるほどアメリカに対する固定概念や不安は消えていきました。アメリカだけでなく色々なことに最初は固定概念などがあると思います。しかし、自分が体験しないとわからないことしかないと思うから、躊躇わずにたくさんのことを学び、挑戦していきたいと思いました。

6. 謝辞

進学も留学もすると決断するのが遅かったのにもかかわらず、文句の一つも言わずにお金を用意してくれ、背中を押してくれた両親にはとても感謝しています。他にも、留学に行く際に必要な準備などに協力してくださった方々、応援してくれた家族や友達にも感謝しています。自分一人だけでは留学はできなかったと思います。皆さんのおかげでこの留学は人生においてとてもいい経験になりました。とても感謝しています。ありがとうございました。

氏名：萬木 綱平

留学報告書

1. 留学先の地域や大学の印象

今回の留学先だったカルフォルニア、バークレーの地域は日本と気候が異なっており、事前に講義で聞いていた通りのとても過ごしやすい気温でした。しかし、一日の中で太陽が出ているときと出ていない時の気温差が激しく、夜と早朝には長袖が必要でした。それに対して昼になると、半袖を着ていないと予想以上に暑さを感じました。この気温の変化に対応するため、夏服と冬服の両方が必要でした。

バークレー校周辺には多くのレストランがあり、学生たちが集まる活気ある町として発展していることがわかりました。多くの留学生や多様な学生が集まるバークレー校の周りには、様々な国の料理を提供するレストランや食堂が点在しており、メキシコ料理、中華料理、ギリシャ料理、日本料理などが食べられました。これらの異国の料理は、バークレー大学が文化的な多様性を尊重し、受け入れていることを表していると考えられます。学生たちはさまざまな文化の料理を楽しむことで、世界中の異なる価値観に触れ、新しい経験を得ることが出来ます。

また、バークレーの町の雰囲気は非常に落ち着いており、学習に集中しやすい環境が整っていました。校内には博物館や美術館が多くあり、学生たちが幅広い分野に触れる機会を提供していました。バークレー大学のキャンパスは見て回るだけでも非常に興味深いものとなっていました。

そんな学習に適した過ごしやすい環境が整っているバークレーですが、街中にホームレスが当たり前前にいたのが衝撃でした。特に危害を加えてくることはなかったのですが、最初は少し恐怖を感じました。アメリカのホームレス問題の深刻さを感じました。

2. 授業やその他活動の概要

二つの授業があり、英語を学ぶイングリッシュボキャブラリーとバークレーとその周辺のベイエリアの文化と歴史について学ぶバークレーエクスペリエンスがありました。

イングリッシュボキャブラリーの授業では、英語についての理解を深め、実践するという内容でした。理解やアメリカの文化や歴史のテキストを通してわからない単語の意味を自ら調べ、それを解説していただくということをしました。解説は非常にわかりやすく、今後様々な単語に興味を持ち調べやすいようにフォーマットを用意して頂けたことがありがたかったです。新たな英語を学ぶ手法を見つけることができました。チームを作り会話の内容

を考えるとということをしました。日常会話の微妙なニュアンスの違いを指摘されることで、英語の能力の向上をはっきり感じました。

バークレーエクスペリエンスではこのバークレーとその周辺のベイエリアの文化と歴史について実際に見て知り、学ぶという内容でした。授業でバークレー内には多数の美術館博物館があることを知りました。中には日本の文化について展示している博物館もあると現地の学生にすすめられたので、是非どのような場所か機会があればまた行ってみたいです。私たちが行ったバークレー美術館ではバークレーの文化や歴史、自然が様々な形で表現されており、説明がわからなくても絵に込められた力を感じ取ることができました。この授業で一番印象に残っているのは人々の自由や平等を求めた行動でした。何かを変えようと施設の占拠など、少し強引だと感じる手段を使いながらも行動に出た歴史は称賛されるべきで、その見習うべきところがあると感じました。

3. 留学により学んだこと具体例（英語表現や文化など）

今回の留学で、私はアメリカ人の積極性にとっても驚かされました。実際に思ったことをはっきり言う、こういった場面に何度も出会いました。ある日、寮に帰ろうとしたバスのなかで、乗客とバスの運転手が乗客の発した運転手に対する差別的な発言に対して口論になっていました。日本だと運転手が黙って受け流すところですが、ここでは違いました。最終的に互いに和解し落ち着きましたが、どうなっていたかわかりませんでした。自分の思っていることをはっきり言うことは喧嘩に発展したり、悪い結果をもたらしたりする場合もあると考えています。ですが、互いに理解しあえたり、何かを変える力も持っています。その最たる例が、バークレーエクスペリエンスで学んだバークレー校での障害者の自由を求めた運動でした。バークレー校に在学していたロバートは、障害者が大学内でまともに学習できる環境を持っていない現状に不満を抱き、障害者学生グループを作り大学と争いました。この行動により今のバークレーの障害者でも学習できる環境があります。こういった、自分の考えや気持ちを言葉にして、行動を起こすことはとても見習うべきことだと感じました。

4. 自分が考える留学の成果と反省点

今回の留学ではバークレーの良さを十分に感じられた良い留学だったと考えています。バークレー校の様々な学問に関する博物館にあまりいけていないことは残念でしたが、まだまだ学ぶことの多い、学習に適した場所であることがわかりました。文化や歴史も非常に興味深かったです。こういったものを深く理解するには英語力が足りませんでした。ですが、英語を勉強することによって知ることのできる世界の姿を外側だけでも見聞きすることができて、英語学習に対するモチベーションが非常に上がりました。

海外の友人を作ることができなかつたのがとても心残りでした。一人の中国から来た留学生と少し会話をすることができ仲良くなれましたが、あまり会話の内容を聞き取れず、会

話として成り立っているか怪しいものでした。ここから、リスニング能力の重要性を強く感じました。パッションで行けるといいますが、話の内容がわからないと会話が成り立たなかったのも、リスニングの練習をしなかったことをとても後悔しました。

5. 留学経験を今後どう活用したいか

今回の留学で、自分の英語の能力が不足していることによって、知ることができなかったことが多数ありました。こういったことを知り、理解できるように英語の語彙やスピーキング、特にリスニングに力を入れて学習に取り組んでいきたいと考えました。積極的に海外の人たちとも交流し会話や文法のスキルを向上させ、Prof.David に教わった英単語の学習法があるのでそれにもとづき、英単語の理解を深めたいです。

海外を歩き、見知らぬ文化に触れ、そこから学ぶことが多くありました。いくつもの困難がありましたが、これらの経験はとても有意義で充実したものでした。この経験いかし、さらなる留学につなげていきたいと考えています。挑戦が新たな刺激をもたらし、次の挑戦につながるいい留学になりました。

6. 謝辞

今回の留学では多くの方に助けてもらう形となりました。コロナになったことにより講義に出られず、評価の部分で助けてくださり心配してくださった Prof.Rachel と Prof.David に感謝を述べたいと思います。この二人の助けのおかげで留学を無事終えることができました。また色々な場面で助けてくださった留学メンバーの皆様、本留学に送り出していただいた国際連携企画課の方々ありがとうございました。皆様がいなければ危なかった場面がいくつもありませんでした。そして一番に、留学費用を負担してくださり、温かく送り出してくれた両親に感謝したいと思います。

氏名：中野 幹太

留学報告書

1. 留学先の地域や大学の印象

私は今回、カリフォルニア州のカリフォルニア大学バークレー校(UC Berkeley)に留学しました。バークレーの気温は20°Cほどで大変過ごしやすいです。しかし、サンフランシスコやその周辺の地域15度程と寒く、バークレーは比較的暖かいです。歴史は日本に比べて浅く、設立は250年ほどです。サマータイムにより、日照時間が長く、午後9時でも明るいです。サンフランシスコはシリコンバレーと呼ばれ、TwitterやInstagram, Facebook, Googleなどの大手IT企業が集結しています。そのため、私が通ったカリフォルニア大学はITに強い大学としても知られています。カリフォルニア大学は在籍人数が多くトップクラスの大学であることもあり、キャンパスがとても広く、自然も多くてきれいでした。中国、韓国などのアジア人の学生も多数在籍しており、その他の国から来ている学生も多数在籍していました。バークレーは様々な人種の人々がいて、思ったほど差別は特になく親切に接してくれたためとても過ごしやすかったです。エリアも様々あり、North Beachというイタリア風の町やJapan Townという日本風の町、China Townという中国風の町、Mission Districtというラテン系の町、そしてCastro DistrictというLGBTQコミュニティの町があり、多様性が感じられます。

学外のことで感じたことは、アメリカは自由の国ということもあり、レストランでも店員はタトゥーやピアスをしていました。ですがほとんどの人の感じがよく、困っていても優しく対応してくれたため、個人的にこれが自由が許される理由なのだと感じました。また、日本は安全で貧困問題もアメリカに比べれば少ないのだと考えました。アメリカは薬物が合法で、薬物中毒のような人が多数いて、ホームレスも多いと感じました。危険そうな場所は明らかに雰囲気が違い、人気が少ないです。また、電車の中を子供と歩き、仕事をくださいと言っている人もいれば、裕福な暮らしをしている人もいて貧富の差が激しいと感じました。

2. 授業やその他活動の概要

授業はもちろんすべて英語で行われます。しかし、先生はゆっくり話してくれて、単語や言い回しも大して難しいものではなかったため、とても楽しく授業を受けることができました。

Academic Vocabularyのクラスでは、単語や表現の理解を深めるということをしました。

例えば、international という単語は、inter と national に分けることができ、それぞれ～間、国際という意味です。この2つから、国際間→国際的というように変換することができます。初めて見る単語でもこのように分けて考えてみれば、なんとなく意味がわかるということを知りました。そのほかにも、単語をより礼儀正しいものに変える練習をしたり、ペアで会話を考えて発表したり、先生と一対一で話したりということもできました。

Berkeley Experience の授業では、主にバークレーやオークランド、サンフランシスコを散策して、カリフォルニアの歴史について学んだり、アートや講演を聞いて英語でディスカッションしたりするということをしました。オークランドの美術館では、カリフォルニアの発展や恐慌について学びました。そこでは10分間でまとめて全員の前でプレゼンテーションをしました。留学前にプレゼンテーションの練習をしていたおかげで、うまくまとめて発表することができました。サンフランシスコでは、Embarcadero のフェリービルディングへフェリーに乗っていき、自分の目でその建物の歴史を学ぶということをしました。フェリービルディングは、90年前は重要な交通手段として使われていましたが、Bay Bridge が開設したのち、自動車での移動が多くなったため需要が無くなり、現在は主にフードマーケットとして使われています。私は歴史的な建物を見るのが好きのため、とても楽しみながら学ぶことができました。

そのほか 1951 coffee company というところで講演を聞く機会もありました。この店は難民をバリスタとして雇い、彼らをここが最終的な就職先とするのではなく、この店で語学力やスキルを伸ばして次の就職につなげるということをしています。講演を聞いて、普段あまり考えずにものや食べ物を購入していますが、生産者や製造者が誰なのかを考えてみるということも大切だと感じました。

しかし、楽しいことばかりではなく、授業で困ったこともあります。それは自分が思ったことを即座に英語で言えないということです。単語がすぐに出てこなかったり、どんな表現を使えばよいかわからないということがあつたりしました。常に頭を働かせて、この言い回しは難しいから、もっと簡単な単語や言い回しに変えるようにしていました。また、はじめから思ったことを英語で考えるということをするようにしていました。少々文法が変でも何か言うことが大切だと考えたため、常に何かを考えるようにしていました。

3. 留学により学んだこと的具体例（英語表現や文化など）

今回の留学では新たに様々な表現を学びました。たとえば、前の人が注文をするときに、Could I have ~?や終わりに That's all と言っていたため、自分もそう言うようにしました。わからなかったら Could you say that again? というように言って必ず聞き返すようにしました。

文化に関しては、必ず店や誰かに会うと挨拶から始まり、How are you? と聞かれたら必ず返さなければならないということです。初めのうちは慣れなくて Good しか言えなかったのですが、Great や Okay というように変えてみたり、その後に少し会話を続けられるよう

になったりしました。また、バスや電車の乗り方が全く違い、近くの人に聞くなどして何とか解決することができました。

そのほかにも最初の授業で先生が言っていた Interactive の話が心に残っています。Interactive とは双方向という意味で、コミュニケーションをもっと取り合おうということを書いていました。誰かがなにかを言った時に、何か反応をしたり、積極的に発言したりすることが大切だということを学びました。何も反応しないのはとても失礼だし、何も発言しないのは欠席しているのと同じであるため、これらのことは忘れないようにどこでもできるようにしたいと考えました。

4. 自分が考える留学の成果と反省点

自分が得られた成果は積極性です。はじめのうちはなかなか自分から話しかけたり答えたりするということができなかったのですが、それでは留学に来た意味がないと考え自分から何か言うということを心掛けました。たった 3 週間の留学でも英語を話すことや、会話をすることに自信がつき、もっと英語を話したいと思うようになりました。また、英語が伝わらなかったときや、困ったことに直面した時の対処がうまくできるようになったと感じました。

反省点としては、日本について聞かれたときにあまりうまく答えられなかったことです。日本の文化や歴史についてはある程度知っていると思っていましたが、いざ説明しようとなると知識不足でうまく説明できませんでした。現地の方にアメリカの歴史や場所について聞くと、歴史をたどりながら丁寧に教えてくれて、いろんなことを知っているんだねと言うと、自分が住んでいるところの歴史を知っておくのは当たり前のことだよと言われて、海外の文化を学ぶのはいいですが、もっと日本のことについて知らなければならないと感じました。

5. 留学経験を今後どう活用したいか

この留学で身につけた英語力を引き続きのばし、TOEIC や TOEFL の勉強に役立ていこうと考えています。また日本にいても身につけた積極性を忘れないようにし、何事も自分からやってみるようにしたいと考えています。この 3 週間で様々な体験をし、文化も学ぶことができたため、もっと興味や関心を持ち、海外と日本のことについて学んでいきたいと考えています。次は長期の留学に行きたいと考えているため、引き続き英語を勉強し続け、以前よりも単語力や表現力を増やして言いたいことがすぐに言えるようにし、リスニング力も上げていきたいと考えています。

6. 謝辞

今回この留学に行かせてくれた両親とサポートしてくれた姉と祖母に感謝します。前から留学に行きたいという話をしていた、海外を経験することもいいことだろうと言ってくれて、世の中の経済が不安定でありながらも留学に行かせてくださりありがとうございます。また、留学の手続きやその他のサポートをしてくださった国際関係企画課や先生方、旅行会社の方々に感謝します。この留学で学んだことは無駄にせず、自分の将来に役立てるようにします。

氏名：岸崎 光有

留学報告書

1. 留学先の地域や大学の印象

アメリカに着いてすぐに街を見たときにすごく感動したことを覚えています。寮に向かうまでのバスの中から見える景色が日本とは全然違って新鮮でした。大学から寮に向かって歩いている時に急に話しかけてくれたり、スターバックスコーヒーで商品を待っている時に私が着ていたパークレーの服を見て話しかけてくれたりなど、カリフォルニアの現地の人たちはとてもフレンドリーでした。大学には、英語を学びに来ている私たちにとっても親身になってくれた優しい先生がいたり、日本の好きなことやものを話してくれたり英語を教えてくれたりする海外の友達ができたりしてとても充実したパークレーでの生活を送ることができました。パークレーは本当に校舎が広くて慣れるのに時間がかかりました。大きな図書館やダイニング、ジムなどの施設が充実していて、短い間だったけどパークレーの生徒として学校に通うことができたことは自分にとって一生の自慢話です。休日にサンフランシスコへ行った時の電車の中ですごく印象に残っていることがあります。それは、リュックとスピーカーを持った黒人の若い男の人が急に荷物を地面に置いて大きな声で「今から僕のパフォーマンスで皆さんに笑顔を届けます」と言って音楽を流し、急に踊り始めました。つり革を使ったり持ち手の棒を使ったりして踊っていました。私たちが乗っていた車両はその男の人のおかげですごく明るくて笑顔でいっぱいでした。パフォーマンスが終わったあとにチップをあげていたり、ずっと拍手を送っている人がいたりして本当に素敵だなと思いました。私は、まず日本ではこのようなことをする人はめったにいないし、逆に迷惑行為だと言われるのだろうなと思いました。そう考えたときに、人それぞれまたはそれぞれの国によって考え方が違うなと改めて感じました。

2. 授業やその他活動の概要

Academic vocabulary という授業では英単語の意味を google docs というサイトを用いて勉強しました。宿題で長文読解の中にある難しい単語を選んで、その単語の意味、発音、類義語やその単語を用いた例文などを google docs に記入し、授業内にみんなで確認をして一通り終わったらテストを受けました。今まで英単語を覚えるときにその単語の綴りと意味を見て覚えるということしか意識していませんでした。でも今まで知っていた英単語の発音が実は間違えていたり、例文の使い方を間違えていたりなどの気づきがたくさんありました。Berkeley experience では電車やフェリーに乗ったり、遠くの美術館へ行ったりスト

リートアートを見に行ったりしました。この授業で私が気づいたことは、積極的に授業に参加することがとても大事だということです。ストリートアートを見に行った時に、壁に描いてある絵についてペアになって話し合ったことを先生に共有する場がありました。挙手性だったので自信がなかった私は自分から手を上げずに待っていた時に、先生が「コウの意見がよかったからみんなにも教えてあげて」と言って私に意見を言う場を設けてくれました。まさか自分が発表しなくてはいけなくなるとは思っていませんでしたので、本当に驚いたし、はじめは緊張で声が出ませんでした。でも頭の中で文法を考えている暇などなく口が動いていました。自分の言っていることがよくわからなかったくらい緊張していたけど、先生や周りの友達がしっかり最後まで聞いてくれて、発表し終わったあとに先生と友達が「よくやった」とほめてくれました。達成感と嬉しい気持ちでいっぱいになりました。今回は自分から手を挙げて発表することはできなかったけど、挑戦することを諦めてはいけないなと思いました。また、完璧じゃなくても挑戦する気持ちがあればうまくいくということがわかりました。

3. 留学により学んだこと的具体例（英語表現や文化など）

現地ではどこへ行っても誰でも「How are you?」という言葉で会話が始まり、「Have a nice day!」という言葉でお別れをしていました。日本にはない文化だと思うので、この2つの言葉を聞くたびにとても感心していました。また路上にはいつもホームレスの方がいたり、大麻を吸っている人がいたりして、改めて日本の治安の良さを実感しました。授業内で行ったパークレーの近くにあるコーヒーカンパニーや美術館、オークランドにあるストリートアートなどを実際に見て思ったことは、カリフォルニアの人たちは世界中のたくさんの人たちのことを理解しようとしていてそれを行動に移しているということです。例えば、世間の氷魚たちに難民の人たちについて知ってもらうために、難民を雇って支援しているコーヒーカンパニーがあったり、アジア人や黒人の人たちの絵を描いたり差別用語を書いたりすることで「人種差別はだめ」と訴えかけているような絵が描かれていたり、布を使って女性の強さやきれいさを表現して男女平等を訴えているような作品が美術館に飾られていたりしました。これらを実際に見て、行動に移すことの大切さと難しさを改めて感じました。

4. 自分が考える留学の成果と反省点

授業が一緒だった中国人の子と仲良くなることができ、たくさんお話をしたり一緒にご飯を食べに行ったりすることができました。もちろん会話をするときは英語だったので、聞き取ることができなかつたり知らない単語があつたりすることはありました。でもその時にそれをスルーするのではなくて自分で一度考えてみたり、自分で知らべたりわからないことはすぐに聞いてみたりして行動することができました。でもお土産屋さんへ行ってレジでお会計をしたときに、店員さんの言っていることがわからなくて適当に「Yes」と答

えてしまったときがありました。あとからよく考えると言っていたことの意味が分かったけれど、その時は焦っていたので適当に答えてしまいました。その時はお土産やさんだったので危ないことはなかったけれど、違う場所だったら何をされるかわからないという可能性もあるということを知ったので、わからないことがあった時は何度も聞き返すべきだと反省しました。

5. 留学経験を今後どう活用したいか

今回の留学を経て、より海外に興味を持ち、もっとたくさんの広い世界を見たいと思うようになりました。言語の壁はもちろんあったけれど、現地の人たちはみんな優しくて日本のことが大好きなひとばかりでした。また改めて日本のいいところも知ることができたので、次に海外へ行く機会があればその時は日本のことをもっと勉強して現地の人に日本の良さについて話すことができればいいなと思います。また、今回の留学を通して自分の英語力のレベルをより深く知ることができもっと頑張らないといけないなと思いました。だからまずは点数として結果が明確に出る TOIEC の 700 点を目標して勉強を頑張りたいと思います。

6. 謝辞

今回の留学を前面にサポートしてくださった国際連携企画課のみなさん、JTB のみなさん、そして北村先生、本当にありがとうございました。皆さんのおかげで刺激的でたくさん勉強することができてとても楽しくて幸せなアメリカでの 3 週間を送ることができました。これからはこの経験を糧に英語の勉強をもっと頑張りたいと思います。

氏名：谷 聖騎

留学報告書

1. 留学先の地域や大学の印象

僕が行った留学先はアメリカのカリフォルニア大学のバークレー校でした。バークレーという地域そのものの印象は治安が悪く物騒な噂を耳にすることや、ホームレスに絡まれることは日常茶飯事とも言える程でした。大学のキャンパスに向かう途中だけでも 10 人ほどのホームレスを見ることがありました。元々大麻が合法であることや治安が少し悪いことは聞いていたのですが、実際に道端で大麻を吸っている人を見たり道路で大麻の匂いがすると、聞いていた話は本当だったのだとすごく驚きました。寮の近くは食べ物の店や服の店が多く、車道がほとんどで細い道などはあまり見かけませんでした。スーパーやコンビニなどはチラホラ見かけたものの、やはり日本とは違い自動販売機を見掛けることはありませんでした。最初は信号の仕様がイマイチわからなくて手こずっていたけど経験を重ねて行くたびに少しずつ慣れていきました。そして気候は常に晴れていて湿度の低かったです。夜になると上着を着ていても肌寒いと感じるほどの気温で、日本との気候の違いを改めて実感しました。家は全体的に大きく、映画でしか見ることのなかったようなデザイン、設計の家が沢山ありました。そして日本に比べて他人とコミュニケーションをとる機会が多く感じました。喧嘩を売られたり金を出せと言われることはなかったものの、道端を歩いていると「日本人ですか？」や「その服かっこいいですね」と話しかけられることが度々ありました。内向的な日本人との違いが印象に残っています。大学のキャンパス内は想像以上に広く、慣れていても道に迷ってしまうほどの広さでした。通学路にはリスがたくさんいて自然を感じることが出来ました。とても人馴れしていて近寄ってきてくれることもありました。寮についてはわりかし綺麗な印象を持ちました。カードキーによって安全面にも配慮されていたので快適でした。また、アメリカでは日本と違い水道水を飲むことが出来ませんでした。飲料水はわざわざスーパーまで買いに行くしかありませんでした。そういった環境に慣れていないのでより印象に残りました。

2. 授業やその他活動の概要

授業は 2 科目ありました。1 つは「academic vocabulary」で、もう 1 つは「Berkeley experience」でした。academic vocabulary は大半が日本人の授業でした。初回の授業が始まると緊張していたのを解くためか先生は自己紹介の時間を設けてくれました。ゲーム感覚で英語を使い自己紹介をしていたので少しみんなの表情も明るくなっていました。この授

業は定期的に課題が出るのですが、基本 2 人 1 組というペアワークだったので協力しあえるのも良いところだと思いました。また Berkeley experience では、近くを散歩しているアメリカ人に英語でインタビューをしたり、アメリカの美術館などを巡るといった、本格的な英語を使った授業でした。この授業では色々な国からの留学生が集まっていて、すごく勉強になりました。

3. 留学により学んだこと的具体例（英語表現や文化など）

留学先で学んだことは大きくわけて 3 つあります。1 つ目は英語における日常会話の基本です。挨拶や飲食店での注文など、テンプレート化している会話を沢山覚えることが出来ました。2 つ目はコミュニケーションのとり方です。道中を歩いている時に服や靴を褒められるということが何度かあったので、自分も真似してみようと思い何度もトライしました。3 つ目は多種多様な文化について理解に近づくことが出来ました。日本の文化以外を知らなかったことで、普段触れることの無い食文化やファッションなどを知れてとてもワクワクしました。

4. 自分が考える留学の成果と反省点

留学での成果の 1 つ目は、耳を英語に慣れさせることが出来たことです。これは留学に行く前に自分の中で決めていた目標で、日常で耳に入ってくる英語のおかげで少し英語を聞き取ることにに対する苦手意識がなくなりました。2 つ目は一緒に留学に行った人達との仲が深まったことです。これは意図しなかった成果なのですが、これからも関わっていく仲間たちとの距離が縮まったのはすごい成果だと思いました。3 つ目はとにかく楽しむことが出来ました。色々なアメリカの観光地に行ったり、色々な人と話すことで楽しみながら英語を学ぶことが出来ました。

留学での反省点は、お金を使いすぎたことと留学で英語を学ぶことにおいての準備不足です。お金は途中から感覚がついてきたのもう大丈夫だと思います。準備不足は詳しく言うと単語の勉強不足やシンプルな文法の知識不足、リスニング能力不足です。もし準備が万全な状態ならもう少し学べるが多かったのではないかと反省しています。

5. 留学経験を今後どう活用したいか

僕はこの留学を英語の能力の向上だけでなく、実際少しの間海外で生活をしたという経験として活かしたいと思いました。もちろん大学 1 回生の春学期に留学に行く人は多くないので英語の能力の向上に関しては周りより留学経験を活用することでリードすることが出来ると思います。それだけでなく、実際英語を使って生活していたという経験を積んだことで、少なからず英語への苦手意識の克服や自信へと活用していきたいと思います。

6. 謝辞

謝辞を伝えたい相手はたくさんいます。まずは留学のための費用を出してくれた両親です。留学がしたくても経済力がなく出来ない人は必ずいると思います。留学に行くことで得られるものが必ずあると言って留学に送り出してくれた両親へは感謝の気持ちしかありません。次に国際連携企画課の方と JTB の方々です。色々な手続きの説明や注意事項、危機管理セミナーまで開いてもらいとても助かりました。おかげで最後まで安全に楽しむことが出来ました。それ以外でも送り出してくれたり応援してくれた友達や親戚にも感謝しています。

氏名：露口 海吏

留学報告書

1. 留学先の地域や大学の印象

まず最初に、バークレー校に行って感じたことは多様性についてです。キャンパスを歩いていると様々な人種の人を目にすることが多かったです。また、学生に対してメリットとなる施設がかなり充実していた。キャンパス内に大きな図書館があったり、いくつかのカフェがあったり学習の助けになる施設もあれば、息抜きとして活用できる施設まで揃っていた。中でも驚いたのが学生の発明品を展示している科学館があったことです。自分の開発したものが科学館に展示される機会は学生の研究に対する意欲を向上させるんじゃないかと感じた。学校の中や周辺を走っているバスが無料なのもよかったと感じた。とにかく学生にとって快適な環境であったと思う。

地域の印象としては、学生寮が多く街は学生が多かったので活気のあるように感じた。しかし、ホームレスの人もかなり多くいた印象でした。いろいろな国のレストランがあったり多文化社会を感じた。

2. 授業やその他活動の概要

アカデミックボキャブラリーでは、主にアメリカの文化や英語のご縁などを学んだ。英語の語源は考えたことはなかったので新しい発見でした。

バークレーエクスペリエンスでは、いろいろなところに行って地域に触れることが多かったです。課題では、知らない人との英会話が多くて苦労しました。街の人にインタビューや移民についての質問をしました。博物館で他の学生を案内したり、ストリートアートについて調べ、現地に行って発表などをしました。とにかく英語を話すということが目的でした。授業以外でも外国の友達といろいろなところを訪れ、たくさんの会話を経験できたと思います。

3. 留学により学んだこと的具体例（英語表現や文化など）

What's up の使い方について学びました。今まで What's up と聞かれたら自分のことを応えて終わることは普通だと思っていたけど、必ず What's up と返さないといけない。Hello みたいな感覚で使うカジュアルな表現。アメリカであまり話さない方がいい話題についても学びました。給料の話はタブーとされているとデイビットが教えてくれました。他には、

アメリカではファーストネームとして名前を先にいう文化があり、名前の次に苗字をいうことです。名前を先に言う理由としては、個人を尊重した考え方だからだそうです。日本の考え方では団体を意識しているのでファミリーネームを先に言うことが根付いていると思います。

スーパーや飲食店で会計の後何か一言言ってくれることが多かった。買い物をしたことに感謝を伝えてくれる文化は気持ちの良いもので、一言 Have a nice day と言われるだけでその後の1日が良くなる気がしました。しかし、店員の態度は人によってちがすぎて、中には怖いなという印象を受ける人も多かった。特にファーストフードとかの店員は比較的对応が怖かった印象でした。逆に少しいいところなんかに行くと対応が良くてチップをあげたいと感じさせられました。チップに文化は最初なんでチップを払わないといけないんだと感じていたんですけど、良い積極をされるとチップをあげたくなる気持ちを理解したし、相手が喜んでるのをみるとチップをあげてよかったなと感じました。留学に行く前は支払いの10%暗いチップを払わないといけないなどと耳にする機会もありましたが、チップは自分の好きな割合で支払うことができたのが驚きでした。もちろんチップなしでもいいですし、1ドルだけチップを支払うなどカスタマイズが効くので留学生としてはとても助かりました。

また、アメリカのキャンパス内にはバリアフリー施設が充実していました。たとえば、扉の横に車椅子用のボタンがありそれを押すと手を使うことなく車椅子利用者の方が部屋に入ることができます。他にも車椅子のままベンチに座れる椅子があったり、キャンパスのどこにいてもバリアフリーの設備を目にすることができました。

4. 自分が考える留学の成果と反省点

留学の成果としてまず最初に挙げられることは英語への関心がより高まったことです。日々英語だけの世界で過ごしているとじぶんの伝えたいことが正確に伝わらないなんてことがよく起こりました。伝えたいことが伝わらないという悔しさはもっと英語を勉強して伝えられるようになりたいという気持ちにさせてくれました。留学中に使って通じたフレーズや新たに他の人の会話から習得したフレーズというのはこれから先も忘れることは無いと思います。また、アメリカでの生活をどうしてより社会的になれたんじゃないかなと思います。わからないことだらけの中で頼ることができるのは現地の人だけだったので、よく人に尋ねるということをしました。たとえば、目的地までの電車がどれかとか、トイレはどこにあるかなどとにかく知ってそうな人に聞くという行動力が身についたと感じます。また、クラスの課題でインタビューがあり、英語での取材を行ったことも人に対して話しかけるということへの抵抗感をなくしてくれた要因かと思います。今回の留学のおかげでより海外へ行きたいという気持ちも芽生え、とても貴重な体験でしたが三週間という短い期間だったので長期の留学にもチャレンジしたいと思えるようになりました。

反省点として、もっと外国の人と関わられたかもしれないところです。土日はよく外国人と

遊びに行ったりしましたが、平日は授業が終わったら何もすることのない日があったのが少しもったいなかったと感じています。また自分から積極的に遊びの話を提案しなかったり、たまに英語を話すこと自体に疲れを感じていたことです。僕はまだ英語が流暢じゃないので、考えてからじゃないと話することができない場面が多くありました。そういう時に考えるのが面倒になり自分から会話をするのが減ってしまっていたことがあり、せっかくの会話のチャンスを自ら潰してしまったことがいちばんの反省点だと思います。

5. 留学経験を今後どう活用したいか

今回の留学体験は英語を学びたいという気持ちを一層強くさせました。アメリカで過ごした三週間は常に刺激的でまた海外に行きたいと思えました。三週間という限られた時間の中で、具体的な活用方法を見つけることはできませんでしたが、これからの学びに対しての気持ちを変化させてくれたことは間違い無いと思います。まだまだ留学の機会は残されているのでそこに向けてがんばろうと思えました。

6. 謝辞

まず、留学費用を出してくれた母に感謝したいです。受験を決めたのがすごく遅く急に決まった留学であったにもかかわらず行っておいでと言ってくれたことで前向きに留学にチャレンジできたと思います。この留学の手続きや現地での支えとなってくれた友達にも感謝したいです。一人で留学に行くのと友達がいるのでは精神的にかなりちがいました。

氏名：京田 莉恋

留学報告書

1. 留学先の地域や大学の印象

私はバークレーにあるカルフォルニア大学のバークレー校に留学していました。バークレーは朝・晩と日中の気温差が激しく、長袖が必須でした。想像以上に気温が低かったので長袖の服をもっともっていけばよかったと後悔しました。ですが、暑すぎもせず、寒すぎもせず、とても過ごしやすい気候でした。また、路上にホームレスの人がいたことにも驚きました。日本ではあまり見る機会がないので、とても新鮮な景色でした。他にも、公共交通機関もとても便利で、バークレー内はバスが無料だったことはとても助かりました。バスに乗ればすぐに色々なところに行くことができ、留学期間中の私の大切な足になっていました。また、多くの留学生や国籍の人が住んでいて、英語以外の言語が飛び交っており、海外に来たことが実感できた日々でした。バークレー校はとても広く、敷地内だけでもバスが何本も走っていました。敷地内には、古くからの建物が多くあり、とても歴史を感じることができました。歴史を感じながら授業を受けることができ、とても良い機会となりました。また、アジアの人が多く、中国人と韓国人がクラスのほとんどを占めていたことにも驚きました。アジア以外の生徒が多く占めていると思っていましたが、想像とは違ったので初めはびっくりしましたが、授業外で他の国籍の留学生や現地の人と交流することができたのでよかったです。

2. 授業やその他活動の概要

私はアカデミック・ボキャブラリーというクラスとバークレーエクスペリエンスという2つのクラスに参加しました。アカデミック・ボキャブラリーのクラスでは、普段使うことのないアカデミックな単語について学びました。アカデミックとは何を指すのか、新しい単語を学びながら考えることができたと思います。また、この授業では、グループ活動が多く、プレゼンテーションをメインにしました。プレゼンテーションのレベルがとても高く、毎回刺激を受けることができました。授業のレベルも高く、自分自身の英語力向上のキーとなったと思います。バークレーエクスペリエンスのクラスでは、授業を受けるのではなく学校の外に出て活動することが多かったです。また、街行く人にインタビューをしたり、美術館を訪れたり、積極的に活動することが求められました。初めは、見知らぬ人と英語でコミュニケーションをとることに抵抗を感じましたが、慣れてくうちに積極的にコミュニケーションをとることの楽しさを感じることができました。また、放課後体育館でバレーボールを

したことも印象に残っています。その場にいた学生と一緒にスポーツをすることでコミュニケーション取ることができ、とても充実した放課後を過ごすことができました。スポーツは言語関係なく誰とでも仲良くなることができると改めて実感しました。

3. 留学により学んだこと的具体例（英語表現や文化など）

この留学を通して、積極的に行動することの大切さを学びました。授業中、日本人以外の生徒が次から次に発言していくのを見てとても衝撃を覚えたのを今でも覚えています。ここでは、大人しくしているのではなく、積極的に自分から行動していかないといけないのだと強く感じた瞬間でした。また、これを通して生徒たちが作っていく授業スタイルの重要性も理解することができました。教授の話聞くだけでなく、分からないところがあったらすぐ教授やクラスメイトに尋ねたり、教授の質問にどんどん答えていったりすることで自分の力がつくことを再確認しました。静かに大人しくしていることが美德されている日本とは違い、自分の意見をはっきりと述べる文化に触れることができ、これからの生き方に影響を与えてくれたと思います。アメリカでの生活は、とにかく自分から行動することが大切であることを痛感した3週間でした。留学を通して学んだ表現の1つとして you know というフレーズがあります。私はこの表現をよく聞きました。教授やネイティブと話している時に、よく使っていたのを覚えています。直訳すると「あなたは知っている」となるので、どうしてこのタイミングで出てくるのだろうと違和感を覚えることが度々ありました。しかし、ネイティブはこの表現を意味なく使っていたり、日本語でいう「ええと、」という意味として使っていたりすることを知った時、とても役にたつフレーズであることに気づきました。その後、私も使ってみようと思うようになり、よく使っています。

4. 自分が考える留学の成果と反省点

私の考える留学の成果は3つあります。1つ目は、多文化に触れることができたことです。日本では直接触れることのできない日本以外の文化に触れることができました。中国や韓国などのアジアやイタリアやフランスなどから留学にきていたクラスメイトと交流することによって他の国について知ることができました。食べ物や伝統的なものについても知ることができ、とてもいい経験となりました。中国の友人にもらった飾り物は大切に部屋に飾っています。2つ目は、自分の英語力に自信を持つことができたことです。留学に行く前までは、自分の英語力に自信がなく、自分の拙い英語を理解してくれるだろうか、自分が伝えたいことを言うことができるのか考えてしまうことが多かったです。ですが、現地でコミュニケーションをとる際、翻訳を使わずに英語で会話を続けることができたことが自分の自信につながりました。また、授業で発言した際にクラスみんなが私の伝えたいことを理解してくれて、うなずいてくれたり話を広げてくれたりして、会話のきっかけを自分から作れたことも自分の自信に繋がりました。3つ目は、積極的に話かけたことです。留学に行く前

の私は、見知らぬ人と話すことが苦手でした。ですが、留学期間中は目が合ったり、仲良く
なってみたいと思うクラスの人などに声をかけたりしていました。また、買い物に行った際
もよく店員さんに話しかけていました。一緒に買うものを選んでくれたり、何がおすすめな
のか教えてくださったりしました。日本にいるときは、あまり話しかけることがなかったの
で、留学をしてよかったなと思う経験でした。

また、今回の留学における反省点は、学校外での生活において日本人と過ごしてしまった
ことです。3週間という短い期間の中、日本人と行動を共にしてしまっていたので、もっと
他の国の人と交流をするべきだったと思います。

5. 留学経験を今後どう活用したいか

この留学を通して、英語を話すことの楽しさを再実感することができ、もっと外の世界を
見てみたいと思うようになりました。もっと自分の英語力を磨き上げ、英語で十分にコミュ
ニケーションをとることができるようになりたいと思います。そのために、TOEIC や
TOEFL などの資格の勉強をしたり、E-CO に積極的に行って留学生と国際交流を行ったり
したいと考えています。また、来年次から参加できる交換留学にも挑戦したいと思っていま
す。英語だけでなく、英語で何かを学ぶということにどんどんチャレンジしたいです。他に
も、海外ボランティア等にも参加して、留学として海外を訪れるだけでなく、途上国の人た
ちの生活をより良くすることができるような活動にも参加したいと思っています。この留
学により、自分の英語力でどこまで突き進んでいけるのか明確になったので、英語+ α を自
分の武器にできるようもう一つの自分の強みを探していきたいです。

6. 謝辞

最後に、この留学を成功させるために、留学費を出してくれた両親や徹底した留学準備や
サポート等をしてくださった先生方や JTB の方に感謝の意を表します。皆さんのサポート
や手助けがなければこの留学を成功させることはできませんでした。携わっていただいた
全ての方に感謝して、この留学経験を次のステージへと活用したいと思います。また、次の
ステップへ繋げることができるよう日々精進していきます。

氏名：出水 健嗣

留学報告書

1. 留学先の地域や大学の印象

まず、留学先であるカルフォルニアの気候について思ったのが、気候がとても自分の好みだったことです。気温は平均で10度代で雨は滅多に降らないので、洋服が好きな自分は雨で服を濡らしたくないので、ですごく自分の理想と合致していてとても過ごしやすく、最高でした。そして、夜と早朝は涼しかったため、夜はとても快適に寝ることができました。そのため、時差ボケで苦しむことは全然ありませんでした。

次に、バークレー校に到着して初めに思ったことは、バークレー校の敷地がとんでもなく広かったことです。学科ごとに校舎が分かっているだけでなく、学生寮もいくつもあったり、ジムや食堂も別棟だったので、最初の頃はずっと迷ってばかりで授業に遅れそうになってしまった日もありました。けれども過ごしていくうちに慣れていき、とても開放的な感覚で生活してました。

2. 授業やその他活動の概要

初回の授業が始まる前はとても緊張と不安を感じていました。同じ大学の仲間は皆ほぼ初対面だったということや、自分自身ハンディキャップを抱えていること。話し慣れていない英語でコミュニケーションを取っていかなければいけないという状況はとても高い壁のように感じていました。

いざ授業が始まると、担任の先生がとても優しくそんな先生で話しやすい雰囲気を保ってくれたことや、GSの後輩の子たちがとても敬意を持って接してくれたことも相まって、最後まで頑張ることができました。他の大学から来た外国人留学生とも良好な関係を構築できたので、授業で困ったことはあまりなかったです。

授業がない日の主な活動については、バークレーの周りを探索していたり、地下鉄に乗ってサンフランシスコに買い物に行ったり、観光などをしていました。バークレーの周りはとても広くて、飲食店が多い印象が残っています。しかし、物価がとても高いので、極力外食に行く回数を減らして、スーパーで牛肉や鶏肉などを買って寮内に設けられているキッチンで焼いて自炊していました。そのほか、近くにあるセカンドストリートでよく服を見ていました。サンフランシスコでは、お土産を買ったり、現地でしか買えない物を中心に書きました。現地にある supreme は日本よりも安くて、手に取りやすい金額でした。そして、日本とはまた違う光景しかなかったなので、とてもいい思い出になりました。

3. 留学により学んだこと的具体例（英語表現や文化など）

留学で学んだこと的具体例として、難しい表現をあまり覚えていなくても、英語でコミュニケーションは取れるということです。もちろん何かを説明する時や、表現の細かなニュアンスを伝えるためにはより多くの表現を覚えていないといけないのですが、自分自身実際ある程度のフレーズや言い回しや決まり文句を知っていれば、ほどほどなコミュニケーションは取れたので、英単語や文法ばかり勉強するのではなく、日常会話のフレーズを勉強して実際に会話するなど実践的な勉強の仕方のほうが良いと思いました。

そして、実際のネイティブの人の口癖やよく言う言葉などを自分も真似していくことで、より自然でネイティブに近い英語を習得できると思いました。

4. 自分が考える留学の成果と反省点

今回の短期語学留学で得ることができた成果は、この留学をやり遂げた経験と自信です。留学に臨む前の自分自身の状況は、自分は金銭面的に乏しい部分があって一年遅れて留学に臨んだことや他にも様々な事情があったり、吃音症というハンデを抱えながらも周りは初対面ばかりのメンバーだったのでとても心細かったです。その中で、この留学をやり遂げたことは、とても強い自信になりました。

反省点としては、もう少し自分から積極的に学校の先生や他の留学生に話しかけていくべきだったと少し反省しています。自分が吃音症を持っていたり、人見知りなのは自分でも良くわかっていました。なので、これを言い訳に少し消極的になってしまっていたのかと思います。なので、もしまた留学に行く事になったら、今度は少しでも自分から発言していきたいと思います。

5. 留学経験を今後どう活用したいか

今後この留学で得た経験は、これからの就職活動や娯楽として活用して行こうと思います。まだ明確な就職希望先は決めれていないのですが、近年日本では英語を扱える人材はとても重宝されると自分の母校の先生から聞きました。なので就職活動をする際、どんどんこの留学経験をアピールしていこうと思います。この留学経験は企業側からしても長所として見られることが多いと思います。娯楽としては、今回の留学で英語のスキルはもちろん。貨幣の両替の仕方、飛行機の乗り方、日本にはないチップの渡し方など、実際に行ってみないとわからない様なことを経験できたと思います。今後お盆休みや正月など長期で休む時間ができた時に海外旅行に行き、観光やショッピングなど自分のやりたい趣味が一つ増えたと思います。

6. 謝辞

この語学短期留学プログラムを企画してくださった皆様、国際連携企画課の先生方、教務課の先生方、そして裏でサポートしてくれていた里親さん。自分を鼓舞してくれた友達にも、本当に感謝しています。

入学当初の頃、金銭面的にプログラムに参加することが困難だったため、先生方にはとても困らせてしまったと思っております。それに、自分がハンディキャップを抱えていることも入学してから伝えたため、とても困惑されたと思います。丁寧に対応してくださりありがとうございます。

自分は、同級生のみんなと一緒に留学に行けなかったためみんなと距離が空いてしまって2回生からも仲良くできるのかなと不安になったり、留学費を賄うためにアルバイトに尽力していたりしてあまり友達と遊べる時間もなかったため、寂しさなどもありました。ですが、そこで腐ってしまっただけでは先生方やみんなに合わせる顔がないと思ったので、ここまで頑張ってきました。皆様方の存在がなければ自分は今頃腐っていたと思います。応援してくれた皆様のおかげでこのプログラムをやり遂げることができたと思います。応援してくださりありがとうございました。

氏名：白川 亮太

留学報告書

1 留学先の地域や大学の印象

気温は基本的に過ごしやすく朝と夜は長袖などを着用しないと寒いと感じました。昼間は半袖でも過ごせましたがたまに風が冷たいと感じる時もありました。虫などは日本に比べると断然少ないと感じました。花粉なども全くなかったです。

パークレイ自体はあまり治安が良くないと感じたのが本音です。道端には沢山のホームレスがいました。日本では感じられないことだと実感しました。

日本と1番違うと思うところは大麻が合法化しているところです。老若男女問わずにいろんな人が大麻を吸っていました。匂いがとてもきつかったのですが耐えるしかありませんでした。(笑)

大学の印象としてはとても自由だなと思いました。言葉にしろと言われたら難しいですがいました。何人かのパークレイの生徒と会話する機会がありました。その時に考えてることのスケールが違うと感じました。それはやはり今までその生徒が勉強してきた証拠なんだなと思いました。そんな環境に3週間もいたことがとても幸せに感じました。

全員がその志を持っていれば強い人間になるんだなと思いました。同じ年齢でもまだまだ未熟だなと痛感しました。

2 授業やその他活動の概要

授業自体はそこまで難しくなかったです。先生もとても愉快な人でした。

留学生とLINEも交換しました。みんな気軽に交換してくれたので嬉しかったです。

3 留学により学んだこと具体例（英語表現や文化など）

時間にルーズな人が多い。周りの人間はみんな大麻をしている人しかいませんでした。

日本と違いタバコに対して厳しいと思いました。

4 自分が考える留学の成果と反省点

もう少し積極的に発言をしたかったです。それ以外はなのいもなし。

5 留学経験を今後どう活用したいか

日本にきた外国人ともっと触れ合う機会を増やしたいなと思いました。

6 謝辞

この度はこのような機会を設けて頂きありがとうございました。

この経験はとても貴重でした。他の人が体験できない経験をできたことはとても自分の人生において得るものが多かったです。

この体験を活かして精進したいと思います。

氏名：萱原 悠太

留学報告書

1. 留学先の地域や大学の印象

気候においては、太陽の日差しはとても強く皮膚がじんじんする痛みがありました。日陰では少し肌寒く上着を着ているぐらいがちょうどよかったです。朝と夜は気温も低く曇りもかかっている、上着だけだと寒いぐらいでした。基本的に涼しくてとても過ごしやすい環境でした。パークレーの印象は学校が近いので比較的安全そうに見えました。しかし、通学路にあるお店の窓ガラスが割れていたこともあり、夜は安全ではないと感じました。大学の印象は、まず学生が勉強に集中しやすい環境だなと思いました。かつどんな人でも入れるので、なかで家族とキャッチボールをしたり、中を散歩したりと地域の方との関わりも深そうだと感じました。大麻が合法なだけあってか、町中で大麻のにおいがしまっており、日本との差異を感じられました。

2. 授業やその他活動の概要

私の academic vocabulary クラスは、日本人 5 人、中国人 11 人、韓国人 1 人でした。はじめに先生は私たちに質問をしました。「Democratic shape とはどんな形ですか？」答えは円でした。そしてこれからの授業は円の形で授業を受けました。日によって異なりましたが、授業の始めにはフリーライティングかお題に沿って話していくなどを行いました。これのおかげで、あまり自信がなくて全員の前で発言できなかったとしても外国人とはなす機会を得ました。そのあとは毎日 1 ページずつ prefix について学び、prefix が終わると root、suffix を学びました。ここでは受験勉強や日常では聞いたこともない単語について学ぶことができました。そして最後にその日学んだ単語を使って劇をする vocab party をしました。4～5 人の班になって 1 単語選び、その単語の意味が使われる劇を自分たちで考え、みんなの前で発表します。実際に聞いて先生の発音をまねているだけでは記憶に定着することはできませんでした。ほかにも難民についてみんなで考え、難民についての本、動画を見てそれぞれの留学生の国の難民について話し合ったりしました。

午後の授業の experience ではたくさんの場所を見てまわりました。初めに行ったのはカリフォルニアアート美術館です。アート美術館だけあってとても難しかったですが、たくさんの作品に触れ、いろんなことを感じ取ることができました。2 回目に行ったのは 1951 コーヒーです。そこのお店では、移民や難民の方しか働いておらず、日本ではあまり見られないようなお店でした。次の授業ではオークランド博物館に行きました。各個人それぞれ

が事前に配布されていた自分のお題を調べました。自分は Japanese internment でした。30分で自分の内容を調べに行き、そのあと調べた内容を発表しました。日本側から見る歴史とアメリカ側から見る歴史の2つを見られてとても面白かったです。次の徐行ではミッション地区にある壁アートを見に行きました。それぞれの壁アートが何かを訴えかけているようでした。ここでも自分が担当した絵に関して発表しました。私の絵はいろんな人種の人たちが映っていて、上にはたくさんの絵具が絞り出されていました。アメリカの国風を表している絵だと思いました。最後の授業で行ったのはオークランドのフェリー乗り場、そこからフェリーに乗ってフェリービルディングに行きました。フェリーは風がとても強くてスマホを手から離すと飛んで行ってしまいそうなほどでした。フェリービルディングでは班で行動して紙に書かれた問題を解いていきました。この授業の先生は事前課題と事後課題がとても多かったです。しかし、事前課題を見て、聞いて説いておくと、次に行く場所の予習ができて「ここが何年にできた場所か」や「ここってこうやって作られたのだな」と知ることができました。事後課題で一番大変だったのは、移民の人にインタビューをする。でした。「あなたは移民ですか？」と聞くのも失礼だと思い、1951コーヒーにアポを取り後日無事にインタビューをすることができました。

3. 留学により学んだこと的具体例（英語表現や文化など）

リスニング：先生はまだ聞き取りやすいように言ってくれていたのですが、聞く分にはこまりませんでした。しかし、インタビューをした時も、録音をしていなかったら絶対に聞き取れなかったです。そして一人だけ1単語しか聞き取れなかった人もいました。日本でいう方言だったのか、活舌の問題だったのかはわかりませんが頭の上に？が3つ浮かぶほどでした。中国人、韓国人とアメリカ人との発音は聞き取る難易度が変わりそうだなと感じました。

スピーキング：ふつうにほかの国の人英語しゃべれるじゃん！が第一印象でした。改めてスピーキングをあまり学んでいないことを痛感させられました。

文化：一度とても危険な地区に知らずと入ってしまったことがありました。そのときは、雰囲気がそこだけ全然違いました。横断歩道を渡る前は普通の都会。わたると一気に暗くなった感じがする。そんな感じでした。ほかにも、高速道路の下を通るとあまりきれいな家が少なくなるなど急に変わることに驚きました。市役所のすぐ前に危険な場所があったりもしました。そこでは車いすの方がほかの地域と比べて格段に多かったです。何か関係があると思いました。

友達を作るのなら話しかけることが大切だと改めて学びました。何かしゃべるきっかけを見つけて、一緒に昼ご飯どう？と誘ってみるのがいいと思いました。

食堂ではヴィーガン用の食事が用意されてあったり、各個人が選んでいる宗教によって、寮が違ったりしました。ここからわかる通り、少なくともパークレーでは個人を尊重しているように感じられました。日本ではあまりヴィーガンの人存在を聞きませんが、アメリカでは移民も多く、たくさんの人種が混合しているおかげだと考えます。実際に、授業で町の

インタビューした時では様々な国の出身であったり、両親がもともとアメリカ人ではなかったりする方が多かったように見受けられました。また、それぞれの国の方に合うようにそれぞれの国のお店があったようにも思えました。直接感じられたのはチャイナタウンです。チャイナタウンではほとんどの人が中国人でした。ほかにも書いてある言語のほとんどが中国語、売っているものもアジアのものでした。

日本ではペットの入店お断りがほとんどですがアメリカでは店内はもちろん電車などの交通機関も許可されていました。そして不思議なことに鳴いたり吠えたりしません。国によっていつも通りの日常の差異を感じることができました。

土地がとても広いので、都会に出ない限り高層建築物はありませんでした。学校では一つ一つのトイレがでかかったです。これは自分の推察ですがどのトイレでも障がい者の方が使いやすいようにできているのではないかと思いました。また電車の中では車いすや自転車が乗れるようなおおきなスペースがあり配慮がされていました。

アメリカではたくさんのハウスレスの方を見ました。寮の近くにはピープルズパークと呼ばれる公園があり、自由に簡易的な家を作り寝泊まりしてもよい場所がありました。

4. 自分が考える留学の成果と反省点

自分が持っている英語の引き出しをどれだけ早く出せるかが鍛えられた感じがしました。人とリアルタイムで話す場合いちいちあの文法はこうで、ここをこうしてなんて言っていられなかったです。Experience の授業で実際の土地に行きアメリカの文化に触れ、多国籍文化というものを知ったことによって、たくさんのももの見方が変わりました。こんな感じに生きてもいいのだと思える場面もありました。より個々の個性を尊重できるようになったと思います。

外国人にしゃべりかける抵抗感が減ったと感じました。私がこの語学留学に行く前にいった海外ではお店の注文なのでしか会話をしませんでした。発音のおかげで相手に言っていることが伝わっているか不安だったからです。しかし、今回れっきとしたアメリカ人ではなくとも英語でしゃべって話した。という経験のおかげでこれから海外に行くときに役に立てそうです。

今回の留学でより一層外国への興味が深まりました。Experience の授業の課題でその土地の歴史を学び、自主的に調べたりもしました。実際に調べて学んだことを直接目で見て感じられたのがとてもよかったです。

反省点はもうすこし話しておくべきだったと思います。挙手制だったところをすこし怖気づいたり、会話の中に飛び込むことができなかつたりしました。勇気を振り絞って一度でも手を挙げることができたのなら、二回目もすんなりと挙手ができたのかなと思います。

5. 留学経験を今後どう活用したいか

これからは自分の意見を常に持つておこうと思いました。海外の方は、人に聞かれた際すぐに自分の意見を発表していました。自分が日本にいたときによく見る光景としては、先生に何かを聞かれる。ちょっと考えてから答える。が大抵でした。ほかのことでも、こっちとこっちどっちが正しいと思う？と聞かれた際、こっちも正しいと思うけど、こっちもなあ。となっている気がします。自分的には自分の意見をしっかり持っていないからこうなっていると考えます。自分の意見を持つことで周りに惑わされなくなったり、たくさんの方に興味を持つようになったりすると思います。

前述したとおり外国人としゃべる抵抗感が減ったので、些細なことでもしゃべってみることを実践したいです。自分がよく使う電車では外国人観光客がたくさんおり、時々困っているところを目にしたりします。そこで少しでも役に立てられたらなと思います。またアルバイト先でもごくまれに外国人客が来る時があります。今までは自信がなく躊躇していた部分もこれからは躊躇せずに話せると思います。

6. 謝辞

今回留学のプログラムを考えてくださり、その後の調整をしてくださった国際連携企画課の方々。ならびに授業の中で留学に関する様々なことをご教授してくださった先生方。ありがとうございました。たくさんの方のおかげで、たくさんの経験を積むことができました。日本では学べないこと。海外ならではのこと。外国人との交流。これらの経験から、自分ができることを理解できました。最後に、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん。決して安いお金ではなかったけれど、見合った経験は詰めたと思います。ここまでサポートしてくれてありがとうございました。

氏名：三木 彩菜

留学報告書

1. 留学先の地域や大学の印象

留学先の地域についての印象は発展した田舎の印象を受けました。バスも電車もあり学生が多い印象で過ごしやすい街であったと思います。寮を出れば、お店がたくさんあり特に飲食店が多く、毎日多くの人で賑わっていました。とくに若い人が多いというイメージがありました。気温も程よい気温でした。日差しもそこまで強くなく、快適に過ごすことができました。日中と夜の寒暖差は少しありましたが、困るような寒さではありませんでした。大学の雰囲気は大きいというのと自由さがありました。大学内は入り口付近にお店が並んでいました。教室に行くまで入り口から10分かかるといぐらい本当に大きいと感じました。自由さを感じた場面は教室を出た学内で感じました。学内では、学生が学生にインタビューをしていたり、学内でスケボーや音楽をかけていたりして自分たちの大学にはない印象がありました。また学生だけでなくいろんな人が学内にもいました。親子だったり、散歩をしている人や本を読んでいる人もいました。一度、小学生の団体に声をかけられてインタビューされました。このようにUCバークレーでは本当に様々な人がいて、日本の大学は本当に学生だけというイメージが強かったのでこの光景にすこし驚きました。

2. 授業やその他活動の概要

授業は参加型の授業でした。Academic Vocabulary では先生からの問いかけが多く一週目はいきなり答えることは難しかったです。何日目かの授業で先生に“日本語が分からないからリアクションをしっかりしてほしい”と言われたことがありました。そこからなるべく先生の問いかけに反応するようにしました。また、授業中に実際に自分たちでカンバセーションを作って先生の前で発表しました。この時は先生に日常会話の使い方を丁寧に教えてくれました。普段アメリカ人が使っている使い方を教えてもらいました。Berkley Experience という授業では学外を出て活動することが多かったです。グループ活動をしたり、絵を見たり、歴史を聞いたり、美術館に行ったりして授業内でもよい体験をすることができました。たまにインタビューする活動もありました。少しインタビューは緊張したけど、すべて楽しかったです。この授業で発表する場面があったのですが、私たちの英語力が一番なく、ほかの留学生の反応を気にしてしまい少し怖かったのですが、自分たちが今ある知識で頑張って発表しました。ある一人の留學生が反応してくれてとても嬉しかったです。

3. 留学により学んだこと的具体例（英語表現や文化など）

今回の留学で学んだことは自ら行動することです。留学前に“向こうから来てくれることはない”と学びました。実際に行ってみて本当に自分から行動をとらないとコミュニケーションをとれませんでした。授業中の発表もやってみないと何もわかりません。今回はたまたまクラスの子が優しくただけかもしれません。でも行動してからわかったことです。行動することは多くはマイナスかもしれませんが、大切なことだと思いました。失敗してもいいという精神が大事だと思います。また人とのコミュニケーションの取り方も日本とは違う面で学ぶことができました。これはコミュニケーションとは少し違うと思うけど、話したりはしないけど、すれ違う人の中で目が合った時笑ってくれたりしました。笑ってくれるとこっちもうれしい気持ちになりました。日本では見ない行動だったなと思います。留学期間中の途中から私も目が合ったら笑うことを心がけました。目が合った人たちとは電車を降りる前に“bye”と声をかけてくれたり、席が空いているよと教えてくれたりしました。みんなとてもやさしいことも学べたし、アメリカのコミュニケーションの取り方も学べました。

4. 自分が考える留学の成果と反省点

今回の留学の成果としては違う文化を体験して良い面、悪い面でも自分について知ることができました。良い面はちゃんと行動するべきところで行動することができたこと、悪い面は違う環境にビビって周りに合わせてしまったことです。これは日本でも生活している中の自分の良い面と悪い面です。大学生活でも今回得た部分を活かしながら、大学生活の励みしたいと思います。反省点としてはあまり自分からコミュニケーションをとることができなかったことです。なるべくスマホに頼らないように自分の言葉で説明しようとしたのですが、相手が何を思っているのか、相手が何を言っているのか聞き取れなかったり、何を言ったらいいかわからない時にどうしても機械に頼る部分が出てしまったことは少し後悔しています。ある程度の日常会話を最低限覚えておいて向こうで使えるようにしておくことをしておけばよかったなと思いました。

5. 留学経験を今後どう活用したいか

この留学経験は今までの自分の人生で大きな経験になりました。この留学経験を今後これからの自分のモチベーションに繋がりたいと思います。今回の留学で英語をもっとしゃべれるようになりたいと強く思った部分がありました。会話を繋げていく難しさや文化の違いも感じていろんな国の文化も体験してみたいなと思いました。これから新しい留学に挑戦してみたいなと思ったし、将来的には海外で何かをしたいと思いました。金銭面とかで長い留学は少し難しそうだけれど、独学で頑張ってみようと思いました。だからこの留学をこれからの自分の英語学習のモチベーションに役立てたいなと思います。

6. 謝辞

今回の留学で両親にはとても感謝しています。高いお金を出してくれて感謝しかありません。留学したいという夢を応援してくれて嬉しかったです。また国際連携企画課の方々、JTBの方々にはさまざまな手続き関係で親切に対応してくださりありがとうございました。また普段関わりのなかったGSのメンバーと授業を通してたくさんしゃべることができました。情報を共有したり、課題を確認しあったりしてGSのメンバーがいてくれて本当に助かりました。ありがとう！！

氏名：広瀬 雅実

留学報告書

1. 留学先の地域や大学の印象

アメリカの多国籍国家を肌で感じる事ができたなと感じました。肌の色や目の色はおろか、年齢や話す言語さえ異なる人たちが集まって学んでいる印象を受け、またそこにいま自分が参加しているということ自体もとても面白いなと感じました。

また、カリフォルニア大学内には自然が多く見受けられました。芝生が特に多く、いつどこで仮眠をとりたくなくても大丈夫なようでした。実際に多くの人が自然を利用して気を休めているところを見ました。

更に、一番良いと感じたのは気候です。気温が少し高くなることもありましたが、湿度がほとんどないせいか体感より高く表記されている印象を受けました。また、売られている服がほぼほぼ裏起毛なことにも驚きました。夏に裏起毛を切れるくらいの気候はとてもよく感じました。

2. 授業やその他活動の概要

まず、アカデミックボキャブラリーの授業では主に語源や物事の意味、概念について授業を受けさせていただきました。英単語はどこからやってきて、だれによって広まりここまで進化しつつも残ってきたのか。調べてもなかなか出てこないような深い歴史を簡単な単語でわかりやすく教えてもらえ、とても面白かったです。

つぎに、エクスペリエンスの授業では実際に大学付近や歴史的建造物の周りに行き、感じたことを沢山の考えを持つ留学生らと共有しました。

具体的には壁画を見に行ったり、美術館に行ったりしました。そこで周りの人たちと自分か考えたことや感じたことを共有するのですが、他人の意見に流されずたとえ対比的な意見になっていたとしても最後まで言い切る事ができるほかの留学生を見て、自分もああなりたいと感じました。

3. 留学により学んだこと具体例（英語表現や文化など）

まず、今回私が実際に足を運んだのはカリフォルニアやその付近でしたが、その中でも主に強く感じたことが二つありました。

一つ目は、日本と比べた時に現れるアメリカ内部の貧富の差についてです。路肩で寝てい

る人や貧しい身なりをしている人の多さです。ストリートチルドレンや物乞いをしていたような人こそいなかたものの、大きな荷物を持ち道端で生活している人や、着る服もなくただただ寝そべり通行人に暴行を受けることしかできないような人をいくつ人も見つけました。

日本では見かけないようなその光景に、大きな衝撃を受けると同時に私が今住んでいる日本の安全さに対して安堵を覚えました。

更に、友達とグレイトモールというカリフォルニアでも大きいとされるショッピングモールに行ったときに、たまたま女の子と二人になったタイミングがありました。

すると大きなお兄さんがたくさんのブレスレットを持ちこちらに向けて、「お金は要らないからあげるよ」と言ってきました。これは留学前に聞いた話と全く同じだと思い全力で断りましたが、国内に貧富の差があるとういうこともたくさん行われているのだろうと学ぶことができました。

二つ目は、日本に住む私たちの自分の国に対しての理解度の浅さです。

当たり前ですが、カリフォルニア大学のキャンパスには様々な国からの留学生たちが授業を受けていました。その中で、ある授業内で自国について周りの人と話す機会が設けられました。私以外のほかの国から来た留学生たちはだれもが自国の抱えている問題点などについてよく理解していました。各国のリアルな経済情勢や政治、民間運動について知ることができたのはよい経験になったと思いましたが、それと同時に、英語を話せるか否かの前に自国について何も知らないことをとても恥ずかしく思いました。また、話を進めていると現地の学生に「ニュースをみないのか」と聞かれ焦ってもの言えなくなりました。自分の国で何が起っていてそれがだれにどう影響しているのか、それに対して自分はどう考えているのか、当たり前自分の意見を言えることに日本との差を感じました。

ただもちろん、外国人の視点で見た日本のいいところや悪いところについても聞くことができ、大変いい経験にもつながりました。

4. 自分が考える留学の成果と反省点

正直に言えば、今振り返ると反省ばかりの三週間だったなと感じます。

自分の言いたいことをうまく言えずに諦めたことや、なにごとにも元から自分の能力を決めつけて行動していたなど、留学が終わった今なら思えます。

例えば、何度か外国からきた留学生と二人で遊ぶ機会がありました。もちろん相手との意思疎通手段は英語しかなく、話さざるを得ない状況でした。その際に、何度か翻訳アプリを使って言いたいことを相手に伝えていたのですが、少し経つと「これくらいの文章ならあなたなら少し考えればわかるはずだよ。諦めないで自分で考えてみてから調べてみて！あなたは英語を勉強しに来てるんだから、だれもせかさないし怒らないよ」と言ってくれました。当時は「そんなこと言われたってコミュニケーションはすぐ取れたほうが盛り上がるしなあ」程度にしか考えていませんでした。

残りの一週間ほどになると慣れもありますがなんとなく前よりかは話すことができるようになったのでより彼女が言っていたことが深く理解できました。

今思うと、確かに自分で考えることによって自分の実力が把握できて、どこができてどこができないのか。自分で自分の対策ができるなと思い、後悔しています。

ただ、自分の成果として日本ではよく「みんなと同じであること」が無意識化で求められているような気がしていましたが、その悪さや自分にどんな悪影響を及ぼしているかを実感することができました。

5. 留学経験を今後どう活用したいか

今回の留学を通して私自身が身に着けたことは多種多様な視点で物事を俯瞰し、他人とそれを共有することの楽しさや興味深さ、または難しさだと思います。カリフォルニア大学だけにとどまらず、アメリカ全体、もしくは日本以外ではみんなそうなのかもしれませんが、だれも私たちの英語力を気にかけて心配し声をかけて切れることなんてないとわかりました。自分の意見がある事はおろか、それを伝えることが当たり前できるとされているアメリカで、そのような経験をした私は、今後はまずしっかりと自分の意見を持つことから始めようと感じています。私の周りには少なくとも、それを意見として発言できる人は少なく、尊敬に値されていると思います。自分がそうなれるようにこの経験を活かしたいなと思っています。

6. 謝辞

今回はほとんどの手続きを大学、もしくは国際連携企画課の皆さんが行ってくれましたが、私たちが個人でする手続きが実際にあったときは何がどうなっているのか、何をすべきなのかすらわからないことがありました。それに比べると何倍もの難しい手続きをしてくださったのだと思うと、本当に皆さんの支えがあっただけでできた留学なのだ実感することができました。先生方並びに JTB の皆さんも、手厚くご指導いただき、とてもありがたかったです。ありがとうございました。

氏名：中西 麻友

留学報告書

1. 留学先の地域や大学の印象

私が留学した場所は、アメリカのカリフォルニア州のサンフランシスコでした。近くに UC バークレー校があり、この大学で3週間授業を受けました。この町や大学の雰囲気は とても開放的で自由な印象でした。日本だと、服装や身だしなみに厳しいですが、ここではみんなそれぞれ様々な格好をしていていいと思いました。また、都会なのでたくさんお店があり娯楽も充実しているように感じました。

2. 授業やその他活動の概要

授業は2種類ありました。1つ目は Academic Vocabulary で2つ目は Berkeley Experience です。Academic Vocabulary では、一般的に使われる単語から論文などに使われる学術的な単語を自分で調べて変換したり、2人グループで会話文を作って発表したりしました。Berkeley Experience では、教室での学習だけでなく実際に壁画アートを見たり、博物館に行ったりしてその場で自分の意見を発表するということをしました。また、グループで意見を交換し、2人以上で発表するという活動もありました。

3. 留学により学んだこと的具体例（英語表現や文化など）

病院へ行かなければいけない状況になったときは、メモ用紙に英語で症状を書くということでした。また、留学に行く前に留学先の国の友達を作っておいて助かったのが留学前から友達を作っておくことも大事だと学びました。私は、実際にこの状況になったので単語やフレーズを調べて書いたうえでインターネットで知り合ったアメリカ人の友達に伝わるかどうか見てもらいました。そこで使った表現を紹介したいと思います。診察を受けたいです: I want to see a doctor 症状: Condition 炎症している: be inflamed 少し化膿しています: little purulent この症状は～前からです: This condition since ~ days ago 処方箋と診断書をいただけますか: Could I have prescription and medical report?

次に、文化についてです。まず、ここにきて思ったことは”Thank you”と”sorry”をしっかりと文化だということです。店員の方、バスの運転手の方、ドアを開けてくれた方など誰に対しても多くの人が”Thank you”と言っていました。日本でも言う人はいますが会釈で済ませることも多いのでここが文化の違いだと感じました。次に、人の容姿について褒めるの

ではなく、髪型や服装など身に着けているものを褒めるということです。実際、” I like your shirt”などの会話をするが多かったです。日本だと、背が高い、顔が小さいなどの身体的特徴を言うことも珍しくないですが、この点も価値観が大きく異なっていると感じました。なぜなのか調べてみたところ、服や身に着けているアクセサリ、髪型は変えることができるものなので容姿のことを話すのと違って失礼にあたらないという考えが1つの理由だそうです。

4. 自分が考える留学の成果と反省点

私がこの留学を通して得た成果は、英語が通じなかったり、聞き取れなかったりすることに対する恐怖を感じなくなったことです。留学する前までは、これが失礼な表現だったらどうしよう、うまく聞き取れず何も言えなくなってしまうらどうしようなど話す前から消極的になってしまっていました。聞き返したり質問したりすることはいいことで、むしろ何も話さなかったり分かったふりをするの方が失礼だという考えに変わりました。実際、聞き取れなかったので”Sorry”や”Yes?”と聞き返すと分かりやすい英語にまとめてくれたり、さらに詳しく話してくれたりしてくれました。さらに、最後の週では自分から先生方に堂々と話しかけに行くことができるようになっていました。持ってきてくださったお菓子がとてもおいしかったのでどこで買ったのか知りたいという内容や、写真を一緒に撮ってもいいですかというような内容でした。とても成長を感じました。

次に、精神的にとっても成長したことです。留学中、足の指が炎症してしまい病院に行かなければいけなくなったり、私だけ電車に乗れず駅に一人置いていかれたりなど予想していなかったトラブルがたくさんありました。しかし、自分でできる限りの行動をする、周りの人や友達を頼る、英語でコミュニケーションを頑張ってみるなどの行動をすることができました。また、臨機応変に状況を把握し、何をすべきかを考える力も身に着きました。

そして、この留学での反省点は、留学前に発音を練習してから来るべきだったということです。発音がうまくいかないせいで、会話がうまくいかない部分があったり、お店で何か注文したくても伝わらなかったりということがたくさんありました。なので、特に留学前は発音の練習に時間を使うべきだと思いました。

次に、クラスの中の人たちだけでなく、キャンパスにいた他の学生たちにも話しかければよかったと後悔していることです。授業で、大学のことについてインタビューするというのがあったのですが私はあまり話しかけることができず、他の留学生の人たちに任せっきりになってしまった部分があったので自分からも何か話しかけていけばもっと英語力が伸びたのではないかと思います。なので、もしもう一度留学できる機会や海外の人と話す機会が出てきたら、英語力が高い人に任せっきりにするのではなく何か自分からも発言していきたいと思います。

5. 留学経験を今後どう活用したいか

この留学を通して、成長できた部分、見つかった課題がたくさんあります。成長できた部分はやはり英語を話すことのチャレンジ精神です。日本だと、アメリカにいたときのように英語を聞く機会や話す機会はとても減りますが、自分から外国人の多いコミュニティに参加したり、英会話に積極的に参加したりするなどをして英語力を上げていくようにしていきたいです。また、今は SNS の普及により英語を学びやすくなっている時代なのでそこでも外国人を探してより多くの人とかかわることで異文化理解もしていきたいと思いました。

そして、辛かったこともたくさんあったけど乗り越えられたという自信につながったので、この自信を今後の生活や勉強などのモチベーション維持につなげられるといいなと思います。

見つかった課題は、特に発音や頭で文章を考えなくてもとっさに英語で答える力です。これらが足りず悔しい思いもたくさんしました。そして、周りの留学生はそれらのレベルが高く圧倒的な差を感じたのでとても焦っています。なので、私も彼らに負けないう、勉強法や時間を見直していきたいと思います。今までは、あまり話すことに特化した練習をあまりしていませんでしたが、コミュニケーションをとる上では一番重要であると気付かされました。これからは、コミュニケーションを意識した英語の勉強や文化の勉強もしていきたいと思います。そして、発見した課題と向き合っこれから外国人の方と話す機会が出てきたときにきちんと反省したことが活かされていけばいいと思います。そして、4年後私の夢である国際企業で働くということが叶ってほしいと思っているのでそれに向かって学んだことが力になっていけるといいなと思います。

6. 謝辞

今回の留学では、追手門学院大学の国際連携課に方、旅行会社の方、先生方を始め、友人、家族、現地の方や大学の先生方などたくさんの方に支援していただきました。私がトラブルにあって困っていた時も真摯に相談に乗ってくださいました。手厚いサポートをしていただき本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

氏名：金森 亮希

留学報告書

1. 留学先の地域や大学の印象

私が今回三週間アメリカのバークレーに留学して、カリフォルニア大学バークレー校での印象について感想を述べたいと思います。

三週間の滞在期間中、私はバークレーキャンパスを訪れ、授業を受け、地域を散策しました。カリフォルニア大学バークレー校のキャンパスは、自然と都市が美しい場所でした。広大な敷地には、緑豊かな庭園、歴史的な建物、近代的な研究施設が点在しており、学生たちに快適な学習環境を提供している印象でした。キャンパス内での授業は、アクティブラーニングやディスカッションベースで行われ、学生と教員のコミュニケーションが重要視されていると感じました。授業の内容では、様々なトピックに深く掘り下げることが多く、生徒側が英語で持論を展開する場面が多く見受けられ、自主性を高める事ができる環境であったと感じました。教員は経験豊かで熱心であり、授業外でも学生とプライベートに関わる話題でコミュニケーションをとっていました。バークレーの地域では、カフェやレストランで異なる文化の食事を楽しむことができ、多様性を体験しました。学外でのアクティビティも豊富に経験でき、バークレー市やサンフランシスコなど、観光スポットも楽しむとともに、現地の人々とのコミュニケーションの取り方や、交通システムを理解する事ができました。総合的に、カリフォルニア大学バークレー校の留学は、高度なアカデミック体験と充実したカリフォルニアの文化を組み合わせた素晴らしい経験でした。将来の留學生活やキャリアに向けて、貴重な経験を積むことができたと感じます。

2. 授業やその他活動の概要

カリフォルニア大学バークレー校での三週間の授業は、自分の中で多くの学びが得られました。私が履修した二つの授業について述べたいと思います。

まず、"academic vocabulary" の授業では、英語の単語を文法や単語そのものだけでなく、その起源や歴史と結びつけて学ぶ方法を教わりました。英単語がギリシャやラテン語などの派生語から派生していることを理解することで、単語の意味を予測するスキルが養われました。これは留学後も非常に実用的であり、単語の意味を覚えるだけでなく、言語の背後にある文化と歴史を深く理解する手助けになります。また、英単語の構成要素が "Prefixes" (前置詞)、"root" (語幹)、"suffixes" (接尾辞) から成り立っていることを学び、言語の構造を探究しました。もう一方のバークレーエクスペリエンスの授業では、実際に地

元のテクノロジーミュージアムやコーヒーショップを訪れ、美術的な英語や実際に起こった事象に関する英語に触れる機会が提供されました。特に、1951 というコーヒーショップカンパニーで実際にプレゼンテーションを聞く授業が非常に興味深かったです。内容がシリアスで全容を理解する事が難しかったですが、そのコーヒーショップが難民に仕事の機会を提供していることが分かりました。このような実際の事例を通じて、社会的に困っている人々に援助をする企業やプロジェクトの存在についても英語と共に学ぶことができました。バークレーの授業は、言語と文化の理解を深め、現在のアメリカの実情と美術的な観点を交えながら実際の場で学ぶ機会を提供してくれました。英語の単語を歴史的な文脈に置き換え、社会的な影響力を持つプロジェクトに触れることで、留學生活は豊かなものとなりました。これらの経験は、将来の学業やキャリアにおいて非常に価値のあるものになると考えました。

3. 留學により学んだことの詳細例（英語表現や文化など）

アメリカと日本のコミュニケーション文化の違いについて学びました。アメリカでは、ストレートに意見や情報を伝えることが重要視されるとデイビッド先生から教わりました。自分の意見を率直に表現し、自己主張する姿勢が尊重されると学びました。これは私にとって自己表現能力を高め、コミュニケーションスキルを向上させる貴重な経験でした。

また、留學中に生じた問題やトラブルを積極的に解決しようとする姿勢が英語力向上に繋がりました。英語のコミュニケーションにおいて、自分の考えや意見を伝えることは非常に重要です。そして、時には間違っているかもしれない英語でも、積極的に発言することで、語彙や文法の修正を受ける機会を得ることができました。これは自信をつけ、英語スキルの向上につながりました。授業で英語の学習方法を学びました。"Prefixes"（前置詞）、"root"（語幹）、"suffixes"（接尾辞）の三つのグループに分類し、その構成要素を理解することで、新しい単語の意味を予測するスキルを身につけました。この勉強法は留學後も続けることができ、英語力を向上させることができます。また、アメリカ独自のチップ文化に触れ、理解し学びました。サービス業でのチップの習慣や意義を理解することは、文化の違いを尊重し、円滑なコミュニケーションを図る上で重要でした。このような文化理解は、国際的なコミュニケーション能力を向上させる助けになりました。最も重要なことは、英語の学習においてインプットだけでなく、アウトプットも重要であることを学びました。自分の考えや意見を表現することで、語彙や表現力が留學前に比べて向上しました。留學は、言語学習だけでなく、自己表現力や異文化理解の向上にも大いに貢献する素晴らしい経験になりました。

4. 自分が考える留學の成果と反省点

留學先のカリフォルニア大学バークレー校での留學によって得た成果と反省点を具体的に挙げたいと思います。

まず、最初に挙げられる成果は英語力の向上です。現地の環境で英語を使うことで、リスニングやスピーキングのスキルが留学前より向上しました。例えば、バークレーエクスペリエンスでは自分の意見を稚拙ながら発言する事ができ、プレゼンテーションでは他の留学生と協力しながらできるようになりました。また、現地の人々と交流する機会が増えたことで、日常会話やコミュニケーションのスキルも伸びました。

留学を通じて、異文化理解も大きく深まりました。アメリカにいる学生たちとの交流を通じて、彼らの価値観や文化を理解することができました。例えば、彼らのコミュニケーションスタイルや性格に触れ、異なる文化間でのコミュニケーションの重要性を学びました。

一方で、反省点もあります。まず、もっと自分の意見をはっきりと述べる勇気を持つべきでした。初めのうちは言葉の壁や緊張から、自分の考えをうまく表現できないことがありました。次第に少しずつですが改善されましたが、もっと自信を持ってコミュニケーションすることができたはずだと考えました。また、もっと地元の文化に飛び込む機会を作るべきでした。もっと屋外や街に出て、地元の文化や生活に触れることで、より深く理解できたと考えます。

5. 留学経験を今後どう活用したいか

現地の環境で経験した語学力や異文化交流をしてきた経験を活かして、TOEIC や英検などの資格取得の力に繋げ、将来の国際的な職場でのコミュニケーションを円滑になるように活用したいです。留学を通じて、異文化理解も大きく深まりました。アメリカの学生や地元の人々と交流する中で、彼らの価値観や考え方を理解し、尊重する姿勢が身につきました。これを活かして、国際的な環境でのチームワークや協力がより円滑に行えると思います。

6. 謝辞

皆様へ、

この度の留学を実現させてくださり、心より感謝申し上げます。私がカリフォルニア大学バークレー校への三週間の留学に参加できたのは、皆様の温かいご支援のおかげです。

まず初めに、JTB の皆様に深く感謝申し上げます。留学手続きや案内など、細やかな配慮とサポートがあったからこそ、安心して留学を行うことができました。

留学支援企画課の皆様にも心から感謝いたします。絶えず私たちの相談に乗ってくださり、留学準備の過程がスムーズに進むように助けてくださいました。おかげで安心して留学に臨むことができました。

また、カリフォルニア大学のちさこさん、ショーンさんにも感謝の意を表したいです。彼らの熱心なサポートがあったからこそ、授業やキャンパスライフを存分に楽しむことができました。さらに、追手門学院大学の教授方にも深く感謝します。教授方のアドバイスのお言葉が励みとなり、有意義な留学を過ごすことができました。最後に、私の家族に感謝の気持

ちを伝えたいです。家族の支えがあってこそ、私はこの素晴らしい留学経験を得ることができました。

氏名：伊原 大翔

留学報告書

1. 留学先の地域や大学の印象

僕が最初にアメリカのバークレーに到着して、感じたことは日本とアメリカは違うということです、それを実感した出来事や物が3つあります。一つ目は建物の様式や看板や広告などの視覚的な違いです。今まではテレビや映画でしか見たことなかったのが、実際の町の雰囲気やハイテンションで眺めたり、感じたりすることができました。二つ目は、交通ルールで違いを感じた要因は視覚的なことです。僕は運転免許を持っていて、車を運転した経験があるので、日本とは違う右側通行、左ハンドルに驚きました、中でも、左ハンドルは、見るたび違和感がありました。最後は、人種や文化の違いです。これは視覚的なことと、内面的なことでも違いを感じました。視覚的なことは、肌の色、瞳の色、掘りの深さ、身長の高さなどが人の外見のことと日本と違い道にゴミ箱がたくさん設置されていることです。内面的なことは食べ物に対する価値観です。日本のレストランなどの飲食店では料理を残す人は少ないし、残したとしても少しの量です。ですが、アメリカのバークレーの食堂では料理を残す人は多く、残す量も大きいように感じ日本とアメリカの違いを実感しました。大学の印象は3つあります。一つ目は、キャンパスが広いということです。キャンパスは広くて迷子に5、6回なりました。そしてキャンパスは美しく、公園や緑地も豊富にあります。二つ目はキャンパス内の人は優しい人が多いということです。授業の課題のために自分のおぼつかない英語でキャンパス内の人にインタビューしたのですが、みんな親切に対応してくれて僕のおぼつかない英語にも対応してくれて、僕の英語の発音が良くて相手が聞き取れなかった時も黙って聞き取れるまで僕の言葉に耳を傾けてくれました。最後の印象は、図書館が Harry potter に出てくる図書館に雰囲気が似ていて Harry Potter 好きの僕はとても興奮したのが印象に残りました。

2. 授業やその他活動の概要

今回の留学では academic vocabulary と Berkeley Experience を履修しました。

academic vocabulary では、一つの単語の語源や関連語などの深いところまで各自調べ、調べた単語をクラスで共有のノートにまとめて、定期的にそれをテストしました。先生の Davit は3週間で English skill をあげるの難しいことを考えて、僕たちに有意義な英語の勉強方法などを教えてくれました。ほかにも授業では僕たちが退屈しないようにジョークを交えながら楽しい授業してくれました。先生は何かの要因で何をしたらいいかわからな

い生徒をおいていかないスタンスで優しい先生でした。Berkeley Experience では、アメリカのバークレーやロサンゼルスにクラスのみんな行き行った場所で学んだことや感じたこと、見た物をプレゼンテーションのように三分くらい話してみんなと学んだことや感じたことを共有する授業でした。クラスのみんなで活動することが多く、くらすにいた中国人の人たちと友達になることができました。中国人の友達は個性的で中でも、くちゅに一という男は個性的で彼はサッカーが好きと聞いたので、セレッソ大阪がパリサンジェルマンとの試合で勝利したことを教えると、かれはそれから僕に話しかけてくるとき常に、日本のサッカー部のニュースはあるか？と聞いてきます。本当に彼と会うたび同じ質問をしてくるので個性的だと思いました。ほかにも個性的な人がたくさんいて授業は楽しく充実しました。

先生のエリザベスは優しく、課題を送るたびメッセージを送ってくれました。そのメッセージの内容は僕を励ますようなメッセージだったり、英語の勉強へのアドバイスだったりたくさん僕を勇気づけてくれました。それに加えてエリザベス先生には厳しい一面もあって、課題の量が多かったりいきなりプレゼンテーションを始めるように指示されたりして大変でした。しかし、この大変な経験も私たちのことを思ってくれたことだと思うので本当に優しい先生でした。

3. 留学により学んだこと的具体例（英語表現や文化など）

学んだことは英語の短縮形の表現です。例えば going to を gonna と want to を wanna と省略することと interest と interesting の使い分けです。文化はチップを払わなかったらめっちゃくちゃなしうちヲ受けると思っていたが、チップが強要されることはなかったし、チップを払わなかったからという理由でひどい仕打ちに遭うこともなかった。しかし、食文化が日本と違って、アメリカのバークレーに着いてから3日もたたないうちに日本食が恋しくなりました。

4. 自分が考える留学の成果と反省点

成果 日本にいたときより少し明るくなれました。アメリカに来ていた留学生は明るい人が多く、アメリカの人でも明るい人が多かったので自分自身も留学前より明るくなれました。

1. 留学先の地域や大学の印象で述べたことにはアメリカに行く前から知っていたこともありますが、時には知識と経験では同じ事柄でも感じ方が大きく異なることがあることを経験できました。自分が全然英語ができていないことを実感できました。留学前から自分の英語の能力が低いことは自覚していたが、現地に行っても少し話せると思ったが、相手に全く伝わらなくて自分が全然英語ができないことを実感できた。

反省点 同じ追手門学院の友達と時間を過ごすことが多かった。日本語で話すことも正直多かったことです。あと現地の人にもっと積極的に話しかけるようにすれば良かったト反

省しています。もっといろんなところにお出かけするともっとアメリカのバークレーについて知れたかもしれないし、たくさんの人とコミュニケーションをとれたかも知れません。

5. 留学経験を今後どう活用したいか

今後、自分は留学を経験した。自分が英語を聞き取ることが苦手だと思った、英語で話がスムーズにできるようになりたいので今後はシャドーイングや英語圏の Kids Movie などを利用して、積極的に聞いたりしたいです。あとこれからは毎日英語に触れて行って留学が意味のある物だったといえるように勉強を頑張りたい。また今回アメリカの留学を経験したことによって慣れていないことに積極的に挑戦したりすると毎日が充実するようになることがわかったのでたくさん時間がある大学生のうちにいろんなことに挑戦してみようと思った。

6. 謝辞

まずこのような留学を行う機会を与えていただきありがとうございました。現地で僕たちの手助けをしてくれたショーンと千佐子先生はいろいろ現地のことについて教えてくれました。ありがとうございました。引率してくれた JTB の方たちはとても丁寧に引率してくださりありがとうございました。僕たちの留学はたくさんの人に支えられてできたことなので留学に携わったすべての人にお礼をもうしたいと思います。

氏名：南原 茉維菜

留学報告書

1. 留学先の地域や大学の印象

私たちが留学したカリフォルニア州では私が想像していたよりも丁寧に接してくれる人が多いという印象を持ちました。寮についた日に部屋割りに関して少しトラブルがあったのですが、直接部屋に来て私たちの伝えたいことや聞きたいことを最後まで聞き、わかりやすく説明するなど私たちが不安を持たないように対応してくださり、最初からとても良い印象を持ちました。生活を送るにつれて出かける頻度も高くなり電車内やすれ違いざまに軽い会話をするが増えたのですがそのような出来事を通してこの地域の人たちは気さくな人が多いという印象も持ちました。

また、大学を始めて見たときは想像の何倍も面積が広く迷いやすそうという印象を持ちました。大学内に時計台や道路があり驚きました。授業を受けていくうちに気づいたのですが、日本ではほとんどの学生が授業の始まる5分前には教室内にいるという状況が多いのと反対にカリフォルニア大学では授業に2~3分遅れてくる人が多く先生も気軽にあいさつを交わしていたので、時間に縛られていない人が多いという印象を持ちました。

2. 授業やその他活動の概要

月曜日から木曜日9時半から12時までの一限目は Academic Vocabulary という授業でした。そこでは、一般的に使われる英単語ではなく学術的、専門的な英単語を学びその英単語に接続されている接頭辞の意味を調べ同じ意味合いの接頭辞が使用された英単語を探すなどの根本的なものを教わったほかにこのようなシチュエーションの時にどのように返答するか、どんな会話をするか私たち学生をグループにして考えさせグループごとに発表してどのフレーズが間違っているか、どのようなフレーズを使えばよりネイティブに近い会話の実現が可能かをひとつひとつ解説してもらった内容がありました。また火曜日と木曜日の週二回ある二限目の Berkeley Experience は先生が一方的に話してそこで聞いたことをそのまま学びにするのではなく大学内に設置されているユニバーサルデザインが施されたものをいろんな国籍が混ざったグループで探していく、美術館やストリートアート、街に足を運び歴史やその場の風景などの情報を自分の視覚で直接手に入れ感じたことを自分の英語でまとめるなど、今までの自分の中での常識を覆されたり、日常に潜んでいる素晴らしいものを見つけたりと自分の価値観に幅広い学びをプラスするような授業でした。

3. 留学により学んだこと的具体例（英語表現や文化など）

私が留学中に達成したい目標として“日本とアメリカのジェンダーに対する積極性や多様性、男女平等の違いなどを調べる”と掲げていましたがその他にも自分の価値観が変わるような学びがありました。学んだことは主に2つあります。

まず、私が目標として掲げていた“日本とアメリカのジェンダーに対する積極性や多様性を調べる”で学んだことはゲイやレズビアン、トランスジェンダーなど LGBTQ+のカミングアウトや偏見が日本に比べるとないに近いということです。主観での学びにはなりますが、恋人の話になった時に躊躇なく自分の恋愛対象は同性だという人や道端でスキンシップをとっている人が多かったです。私は同性愛者ではないのですが授業の一環で美術館に行った際友達と手を繋いでいたら先生が素敵だと一言言ってくださいました。その他にもジェンダー、宗教などポリティカルコレクトネスに配慮した発言もよく見かけられました。私が留学した地域だけだったのかもしれませんがこのように LGBTQ+を受け入れる体制をとっている人が多く、その環境があるからこそカミングアウトがしやすいという結果になると感じました。

つぎに、アメリカの積極的な行動について学びました。電車に乗っていたら初対面の方に話しかけられて会話をしていたのですがそこで「～をしてみて」と言われ「できない」と答えたときに最初からできないと決めつけて失敗を恐れてやらないのではなく挑戦する心をもってとりあえず「OK,わかった、やってみる」など発言、行動するのがアメリカ。と教えられました。この言葉を聞いて失敗を恐れずに行動を起こそうという気持ちが全体的な積極性につながっていると学びました。

4. 自分が考える留学の成果と反省点

私の考えるこの留学での成果は人種差別について今まで考えていなかった考え方をもてたことです。留学に行く前は先生にチャイニーズと言われることやつり目のジェスチャーをされることがあるから日本人ですと言うといい。と言われていて、実際に中国人いじりのようなものを初対面の人にされたとき友達が日本人です。と言っていたのですが私はそこに疑問を持ちました。私たちアジア人も初対面のラテン系の外国人などを見ても国籍は分からないのに中国人と間違われたら差別をされている、嫌な気持ちになるというのは日本人が中国人に向けた差別をしているということになるのではないかなとはじめて考えました。この留学でいろんな国籍の方と話す機会がありその方たちの尊敬できる部分や優しい部分など国のイメージだけで決めつけて関わらなかつたら分からなかったような部分を知ることができたからこそそのような考えを持てたのでそれが一番の成果だと思います。

また、反省点は計画性がなかったことです。何時になったら何をするのかなど授業の準備をするにあたって必要なことに優先順位を決めず、楽しいことを優先してしまった結果毎日送信する留学ジャーナルの記入を忘れてしまったり、課題があることを思い出して夜遅

くに終わらせたりと自分に負担がかかることをずっとしていました。計画性をもって行動することは留学中だけではなくどこでも必要となることなので意識していきたいと思いません。

5. 留学経験を今後どう活用したいか

今回の留学を通して私には突発的に英語を話す能力もネイティブの英語を聞き取る能力も不足していることを再確認することができました。この欠点をなくしていくために授業で学んだ接頭辞や会話の定型文のみならず初対面の人に教わったように追手門学院大学での授業でも積極性をもって自分の学びをより深めていくことが今後留学経験を活用すべきことのひとつだと思います。

また、自分の行動だけで全体の動きが変わるものではないのですが、留学中に学んだ国のイメージだけでその人の性格を決めつけない意識、適度に性や宗教などに配慮する意識を今後も活用していきたいです。

6. 謝辞

本留学を行うにあたり多くの方々にご協力頂きましたこと御礼申し上げます。本留学を遂行するにあたり、書類の記入漏れなどたくさんのご迷惑をお掛けしたにもかかわらず丁寧な対応をしてくださいました国際連携企画課郷田さんに深く感謝申し上げます。

氏名：新井 さくら

留学報告書

1. 留学先の地域や大学の印象

留学先の地域の印象は、日本に比べて圧倒的にホームレスの方が多いと感じました。また道にゴミ箱が多いと感じました。大学はとにかく規模が大きくて驚きました。学部ごとに建物が異なっていたりして、大学内をスクーターで移動する学生を多く見かけました。また、大学周辺だったからなのか飲食店が非常に多かったです。気候は比較的暖かく、湿気がほとんど無いため日本より過ごしやすかったです。雨も1度も降らず、日差しがとても強かったです。また日本と違って注文をタッチパネルで行う飲食店が多かったです。

2. 授業やその他活動の概要

授業は今回2コマ受けました。1コマ目は Academic Vocabulary で2コマ目は Experience の授業でした。1コマ目の授業では、まず縦横綺麗に揃えられた机の並びからみんなで半円になって学生同士で先生の質問に対しての答えを共有するところから始まります。そこからその日に習ういくつかの英単語の意味と発音の説明を聞き、そこから自分たちで各々発音を何度も確認したり日本語で意味を調べたりします。そこから先生が決めたグループで Vocabulary theater をしました。内容としては、その日習った単語から1つ選び、それを連想させるシナリオを考えて自分達自身でみんなの前で演じるというものです。その後の授業内容はその日その日で異なっていました。難民についての動画を視聴してみんなで知識や考えを共有し合ったり、教室を出て大学内のアートを見に行ったり、難民の方達の為に作られたカフェ (1951 coffee) に行ったりととても活動的な授業でした。2コマ目の授業は1コマ目に比べて更に活動的で色んなミュージアムに行ったり大学内の図書館に行ったりしました。ミュージアムでは沢山の芸術作品や歴史の勉強をしました。また、大学内で学生に大学のおすすめスポットをインタビューし、それをプレゼンするという授業もありました。

3. 留学により学んだこと的具体例 (英語表現や文化など)

現地の方は今まで日本の学校で学んできた英語とは違う英語表現を使っていることの方が多かったです。ただ今まで学んできた英語力で理解できるものも多かったです。実際の英語はとても速くて聞き取るのがとても難しかったです。

文化の面では、とてもフランクな方が多く、こちらから話しかけるととても笑顔で気軽に話してくれる方が多かった印象でした。表情豊かで、身振り手振りを使って伝えている人が多かったです。また当然ですが、アメリカは多民族国家のため様々な人種の人々が共存していました。そして何より物価が高かったです。また日本のように安くて美味しいものが少なく、高いお金を払っても口に合わないものもあり初めは慣れるのに時間がかかりました。お店で食べ物を注文するときでも、「How are you?」や「Hi young woman.」や「いい買い物だね」など日本の接客ではあまり言われたことのない言葉で気さくに話しかけてくれました。また多民族国家だからなのか本屋さんでは子供向けの本に肌の色や文化の違いがあってもみんな同じ人間というようなメッセージが込められたものを取り扱った内容の書籍がいくつかありました。また驚いたのが、服屋さんに行って服を買った際、袋に服を入れるとき畳まずにそのまま放り込んで服を入れていたのがとても面白かったです。また現地の方や他の留学生の多くは、自分の思ったことをストレートに伝えていて建前や余計な遠慮をしないところがとても素敵だなと感じました。また、授業内でも自らが主体的となって授業内容の提案をする人もいて、あらゆる活動において積極的な人がとても多かったです。そして街中で見かけるほとんどの人は比較的ラフな服装の人が多かったです。以前、アメリカの方は大学に行くときはメイクやおしゃれをしたりする人がそれほど多くないと聞いていたのですが、本当にそうで驚きました。また日本で多く見かけるファッションをしている人はほとんどおらず、流行りのY2Kファッションやフレンチガリーなファッションなど、多種多様でそれぞれ個性が引き立つファッションをしていて、街中を歩くのがとても楽しかったです。また街中には、日本で絶対見かけることの無いドラックフリーゾーンがありました。

4. 自分が考える留学の成果と反省点

私が考える留学の成果は、大きく分けて3つあります。まず、英語に慣れ、英語の文章を見ること、英語を聞くことと使うことの抵抗が減ったことです。やはり現地では英語を使わなければ通じない環境だったこともあり、英語を使う機会が多かったことから、どんなに英語に自信が無くても強制的に話さなければいけなかったため、英語に対する抵抗が少なくなりました。また、現地では英語が沢山飛び交っていたので、次第に完璧な解釈が出来ず理解出来なくとも、以前より単語をはっきり聞き取れているように感じました。次に、決められた限られた時間で物事を考える力と実践力が備わったことです。これは1コマ目の授業の影響が大きかったように感じます。授業内で、その場でシナリオを考えて自分達で演じてみるというのを何度も行ったため、それが限られた時間でこなす訓練になったと思います。最後に、コミュニケーション能力が高まったことです。まず3週間一緒に時間を過ごしたため、GSの子達と以前より気軽に話せるようになりました。また他の留学生とも交流する機会が多かったため、自分から話しかけに行く機会が多く、以前に比べてフランクになったように感じます。

反省点としては、留学生や現地の学生とあまり一緒に過ごすことが出来なかったことです。休日や放課後など友達と時間を過ごすことが多く、全く留学生や現地学生と遊ぶ機会を作らなかったことを後悔しています。もっと交流していれば英語を使う機会は増えただろうし、異文化交流も出来たのではないかと感じています。また他の留学生の英語力が高く、授業内で意見交換をしなければならない場面でもなかなか自分の伝えたい言葉を英語にすることが出来ず、あまり発言できなかつたことがとても悔しかったです。また授業の内容が理解出来ず分からないことがあった際、先生が分からないことはないと聞かれても恥ずかしくて素直に聞くことが出来ませんでした。

5. 留学経験を今後どう活用したいか

今回の留学で感じた、英語が咄嗟にスラスラ出ないということを今後改善していきたいなと思いました。そのためにはこの場面ではこういうなどの定型文などをひたすら暗記していったり、洋画や洋楽を使って、その時々で使う英会話を身に付けたりして英語のスピーキング力を高めていきたいです。そうすれば自ずと、使う英語が分かっている状態なのでリスニング力も身に付いていくように感じます。留学中、他の留学生が自分の意見をはっきり伝えていたり、積極的に発言したりしている様子を見て、授業に積極的に参加することや自分の思っていることをはっきり伝えたいと思いました。今までは恥ずかしかったり周りに気を使ったりして言えなかったのですが、これからはもっと積極的に伝えていこうと思いました。

6. 謝辞

今回留学するにあたって、本当に色んな人からの支えがあって学ばせていただいたなとしみじみと感じました。まず一番は家族です。決して安くはない留学費用を負担して私の学びたいという望みを叶えてくれたこと。そして事前の留学準備を手伝ってくれたり現地での悩みの相談に乗ってくれたりと両親には本当に感謝しています。そして留学するまでの準備で大変お世話になった JTB の方々や郷田さんや大学の先生方。皆さん留学前の必要な準備の手順を丁寧に教えてくださり、分からないところは親身になって時間を作って下さりました。本当にありがとうございます。また、現地でサポートして下さったショーンさんやパークレーの先生方、私が授業に付いていけなく困っているときに何度も確認して丁寧に教えてくれたレイチェル先生、本当にありがとうございました。最後に友達です。みんながいてくれたからこそ留学で感じる孤独が無く楽しく過ごせました。私が悩んでいた時、友達が親身に相談に乗ってくれて、楽しいことや色んな所に一緒に行ってくれたおかげで、私は最後まで挫けることなく留学生活を送れました。本当にありがとうございます。

氏名：片木 晴斗

留学報告書

1. 留学先の地域や大学の印象

私が最初に感じた留学先の地域の印象は様々なお店が多い印象でした。飲食店や雑貨屋、古着屋などのお店が並んだ通りが多く感じました。しかし、一つ道を外れると住宅が並ぶ通りが多くありました。ただ、寮の近くにスーパーやコンビニがありませんと感じました。しかし、日本と比べて歩道が歩きやすく、長い距離を歩いても疲れを感じにくかったです。次に、大学の印象はとにかく敷地が広いということです。日本の大学と比べものにならないくらい広大で、街の人々が自由に使用しているように感じました。大学と言うよりは街の一つの広場として認知されているようでした。また、観光客の方々も多く目にしたので、一つの観光地としても認知されているようでした。

2. 授業やその他活動の概要

大学での授業は生徒たちの主体性を大切にしている、教室での席順などはなく自由に座り、先生の周りを囲むように座り授業を行っていました。そのため、一人一人に話しかけるように先生は授業を進めていました。授業内容は academic vocabulary では一つの英単語の語源や意味の定義について学ぶ授業でした。ペアで複数の英単語の語源や意味、類義語などを調べて、クラスで共有し学びを深めていました。そして、Berkeley experience ではバークレーやアメリカの歴史や文化を実際に博物館や美術館に行つて学ぶ授業でした。実際に自分の身でアメリカでの差別の歴史や戦争など忘れてはいけない歴史を学ぶことができる授業でした。

授業以外では、基本的に友人とバークレーやサンフランシスコ郊外に出かけて食事や買い物を楽しんでいました。食事では、ホットドッグやピザ、ハンバーガーなどアメリカらしい食べ物ばかりで、食堂のメニューもフライドポテトやピザなどの食べ物が多くありました。そして、アメリカの古着やバークレーのグッズなど様々な物を購入しました。

3. 留学により学んだこと具体例（英語表現や文化など）

私が留学で学んだことはアメリカでは個人の意見を大切にしていると学びました。これを感じた場面は、大学での授業でした。授業内で先生が生徒に対して質問する場面が多々ありました。そのときに、先生は一人一人に質問していて、一人の生徒の意見をとても大切に

している印象を受けました。また、授業内で問題の答えを先生が生徒に聞く場面がありました。そのときは、答えが出るまで先生はヒントを与えていて、生徒自身で答えを導き出すことを大切にしていると感じました。

次に、アメリカでは感謝することを大切にしていると学びました。たとえば、バスを利用したときに乗客の人々が降りる際に、運転手に対して大きな声で「Thank you.」と言っていました。また、毎回の授業終了時には、先生が必ず生徒たちに感謝を伝えていました。授業最終日でも、これまで授業を受けてくれたことへの感謝も伝えていました。

最後に、アメリカではビーガンの方々に対する食品が多くあると学びました。食堂や飲食店に行くとビーガンの為の料理が必ず提供されていました。たとえば、ハンバーガーのバンズが大豆で作られた物が提供されていました。アメリカは多様性を尊重する意識が高いと感じました。

4. 自分が考える留学の成果と反省点

私が考える留学での成果は、英語を読むことや聞くことなどに苦手意識をなくすことができたことです。留学に行く前は英語に対して少し苦手意識がありました。しかし、アメリカでは英語で書かれていたり話しかけられたりすることが当たり前のため、英語を理解する必要があります。そのため、毎日英語を見て聞いてを繰り返しているうちに英語を見ることに苦手意識が減っていきました。授業では、自分のもっている英語の知識を最大限に活用して自分の言いたいことを伝えることができたため、自分の英語にも伝える力があると感じることができました。そのため、今後英語を使っていく中で少し自信を持って話したり書いたりすることができると思いました。

次に、私が考える留学での反省点は、海外の方と会話する機会が少なかったことです。せっかくアメリカに留学しているので海外の方と英語を使って会話をしたいと留学前は考えていました。しかし、いざ留学が始まるとなかなか英語で話しかけることができませんでした。飲食店や買い物をするときは店員さんと会話することはありましたが、大学で学生と会話する機会はほとんどありませんでした。大学の授業のクラスメートには、中国や台湾出身の留学生が多くいました。彼らは積極的に先生や他の生徒に話しかけたり発言していたりしていました。そこで私は自分の英語のスキルに自信があると積極的に話しかけることができると感じました。留学時はどうしても自分の英語に自信が持てなかったため、海外の方と多くコミュニケーションを取ることができずに終わってしまいました。

5. 留学経験を今後どう活用したいか

私は今回の留学を自分がなにか物事を進めるときに思い出すことができるようにしたいと思っています。留学中困ったことはいくつもありました。一番困ったことは、大学から出される課題の先生の指示がもちろん英語でされるのでその理解に困りました。しかし、友

達とその時のことを思い出したりインターネットで調べたりすることで無事にできていました。この経験から、なにか物事を進めるうえで困ったことがあれば、誰かに相談して問題を解決したり、自分でインターネットを使って問題解決を導く情報を入手したりして、問題解決に取り組んでいきたいと思います。

次に、私はアメリカに行ってそのときをとにかく楽しむことの重要さを学びました。留学は遊びに行っている訳ではないのは分かっていますが、楽しさや面白いと感ずることができない状態では勉強にも支障が出ると感じました。また、academic vocabulary と Berkeley experience の先生から楽しむことを第一に考えて授業を進めているように感じました。楽しむことで自分の記憶に残りやすく後に振り返ったときに良い思い出となると考えています。そのため、今後の大学生活に限らず自分が生きていく上では、楽しさ、面白さを優先して人生を歩んでいきたいと思いました。また、自分の夢や就きたい職業を探すときも自分が面白そうと感ずるものを探していきたいとこの留学経験から思いました。

6. 謝辞

私はたくさんの人の支えがあったことで今回の留学を無事に終えることができたと考えています。特に感謝している順番というのはありませんが、一番に感謝しているのは家族です。私は今回が初めての海外で3週間も家を空けたことがなかったので、健康面や安全面で心配をたくさんかけたと思います。また、留学をする上で多額の費用が必要になったり留学に向けての様々な準備をしてもらったりしたので、家族にはとても迷惑をかけたと思っています。次に、友人にもとても感謝しています。なにも分からない留学先で一緒に課題をしたり外出したりして留学をより濃い経験にできました。常に友人と過ごして話したいことを話すことができていたので、自分で不安や心配事を抱えずに過ごすことができました。最後に、留学の手続きを丁寧に教えてくださった郷田さんや JTB の方々にはとても感謝しています。私が留学に行くまでに、多くの準備や手続きが必要になりました。そんな多くの準備や手続きをしていただいた方々には迷惑をかけてしまったこともあったのでとても感謝しています。4月から留学先や手続きについての詳細を説明していただいたことにより、問題なく留学を迎えられました。また、留学先で困ったことや分からないことを詳しく教えていただいたチサコさん、ションさんにも感謝しています。寮での生活や大学で生活が無事で安全に過ごすことができたことはお二人の存在があったことだと思っています。あらためて、今回の留学はたくさんの方々の支えによって無事に終えることができ、忘れることのない経験となりました。本当にたくさんの方々には感謝しています。

編集後記

短期「語学」留学という名のとおり、英語力を高めることが主目的のプログラムです。しかし、言語に加えて他にも多くの学びがあったようです。この報告集から、そのことがはっきり伝わってきます。そして、留学を終えて間もないこの時期に、自らの留学をしっかりと振り返り、気づきや学びを自分の言葉で綴ったことに大きな意義があります。書き留めることによって、気づきや学びが自分の血となり肉となることでしょう。

みなさんの新鮮な気づきが、この報告集のなかにまばゆいばかりに満ち溢れています。ページを繰るごとにハッとさせられます。例えば、1951 Coffee Company というカフェを訪問し、難民支援という社会課題に取り組む事業について学んだことを複数の人が書いています。とても魅力的な取り組みであり、私もそこにいて一緒に話を聞いてみたかった（そしてコーヒーを飲みたかった！）、などと感じてしまいました。みなさんの体験談から私も多くのことを学ばせていただいています。本当にありがとうございます！

さて、国際学部が開設されて2年目となる本年度の夏期短期語学留学に関していくつかの新たな試みが加わりました。そのなかの二つについて、ここで述べたいと思います。一つが「短期留学メンター」という役割です。具体的には、前年度に夏期短期語学留学を体験したグローバルスタディーズ専攻の現2年生5名が後輩たちに助言を与えてくれました。メンターたちは、まず春学期の留学特別演習1の授業において、クラス全員に向かって自分たちの体験を発表しました。その後、メンターがそれぞれ受け持つチームのメンバーたちとざっくばらんに語り合いました。9月の留学特別演習2の授業にもメンターたちが集まってくれ、授業最終日の留学成果報告会において各セッションの司会進行と、学生の発表に対するコメント提供を英語で立派にこなしました。報告会終了後に各チームで振り返りをした際にもメンターが同席しました。

実は、本年度が始まる4月にメンターの募集を始めたのですが、希望者が果たして集まるかどうか最初は不安でした。しかし、それはまったくの杞憂にすぎませんでした。今回の5名は自ら進んで手を上げてくれたのです。この積極性も、去年の留学体験の成果の表れの一つなのかもしれません。メンターを務めた川口由羽さん、小林美緒さん、新納頼揮さん、武田晴陽さん、宮尾藍羽さんの5名に心から感謝いたします。みんなとっても輝いていたよ！

もう一つの試みが、教職員から留学体験談を聴く活動の増強です。国際連携企画課の郷田さんには、昨年度に続いて、ご自身の留学体験や、英語力を高めそれを生かして働くことの意義を留学特別演習1の授業内でお話いただきました。さらに、本年度は新たに国際学部教員の平井華代先生と足立勝先生にもそれぞれのご体験を語っていただきました。留学するとはどのようなことか、何のために留学するのか、という目的意識や心構えをそれぞれの学

生が強めることにつながったと思います。ゲスト講師のかたがたには、「留学において役立つ英語表現のワンポイント講座」も事前に依頼しました。それらの英語表現には、コミュニケーションを円滑にするためのコツが含まれており、大いに参考になるものでした。貴重なお話をいただいたゲスト講師各位に感謝いたします。ありがとうございました！

もちろん、他の英語科目や演習科目、さらには TOIEC 課外講座などを通じて留学への準備が全体として進んだのであり、そこに多くの人たちの貢献があったことと存じます。

今回の夏期短期語学留学は完了しましたが、みなさんの大学生活は続きます。そして、人生も続きます。留学体験は自分の人生に果たしてどのような影響を与えたのか？ この問いに対する答えは、少々大げさに言うならば、一生かけて見つけていくものかもしれません。何年後か、あるいは何十年後かにみなさんがこの報告集を再び読み返し、2023 年夏の留学体験の意味を改めて考えてみる機会があると素敵だろうと思います。

みなさんの中には、今回の体験を生かして、より本格的な留学に挑戦したいという気持ちを新たにした人たちがいます。目標の実現に向けて、ぜひ前に進んでいってほしいと願っています。留学が本格的なものになればなるほど、得られる成果も大きくなるはずです。そして同時に困難も大きくなります。ここでいう困難には金銭面など様々なものがあり、そこに精神的な大変さも含まれます。すべてが薔薇色の留学というものは恐らくありません。本格的な留学を目指す人は、これらの困難に立ち向かっていく意志と覚悟を持って、ぜひ実現してもらいたいと思います。その価値がきっとあります。

末筆ですが、今回の夏期短期語学留学や、その前後の留学特別演習の実施にあたっては、学生のご家族、UCB、JTB、国際連携企画課、教務課、松宮新吾学部長はじめ国際学部教員各位など、非常に多くの人たちのご尽力がありました。学生たちも報告書で感謝を述べていますが、ここで改めてみなさまへの敬意と感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。

2023 年 9 月

追手門学院大学国際学部
北村 健二